

第2回 四街道市子ども読書活動推進計画策定委員会 開催要項

令和8年2月3日（火） 14：00～
四街道市役所第二庁舎 第2会議室

委嘱状交付（市民枠1名）

1 開会

2 会長挨拶

3 議題

（1）第四次計画における成果と課題について

（「読書に関するアンケート」の結果を踏まえて）

（2）第五次計画の基本方針、具体的な方策等について

（3）策定スケジュールについて

4 諸連絡

・第3回 四街道市子ども読書活動推進計画策定委員会

令和8年5月 日（ ） 14：00～

四街道市役所第二庁舎 第2会議室

5 閉会

委員名簿

	役職	氏名	備考
1	会長	村上 伸	旭中学校 校長
2	副会長	渡辺 暢恵	東京学芸大学 非常勤講師
3	委員	林 尚子	南小学校 教諭
4	委員	谷嶋 あゆみ	四街道北中学校 教諭
5	委員	水野 由紀子	つぼみ幼稚園 教諭
6	委員	秋山 有美	中央保育所 保育士
7	委員	大塚 映子	図書館協議会委員 お話の小部屋 図書ボランティア
8	委員	山田 理恵	社会教育委員 四街道小学校・旭小学校 学校司書
9	委員	下山 仁志	保育課 課長
10	委員	齋藤 久光	市立図書館 館長
11	委員	水口 由美子	市民
12	委員	平田 文絵	市民
13	委員	堀 由美子	市民

※教育委員会 教育長 府川 雅司

※事務局 指導課 課長 伊藤 友江
指導主事 田村 健太
指導主事 猪谷 龍哉

資料 1

読書に関するアンケート(結果)について

1 調査時期と調査対象者

(調査時期 令和7年10月)

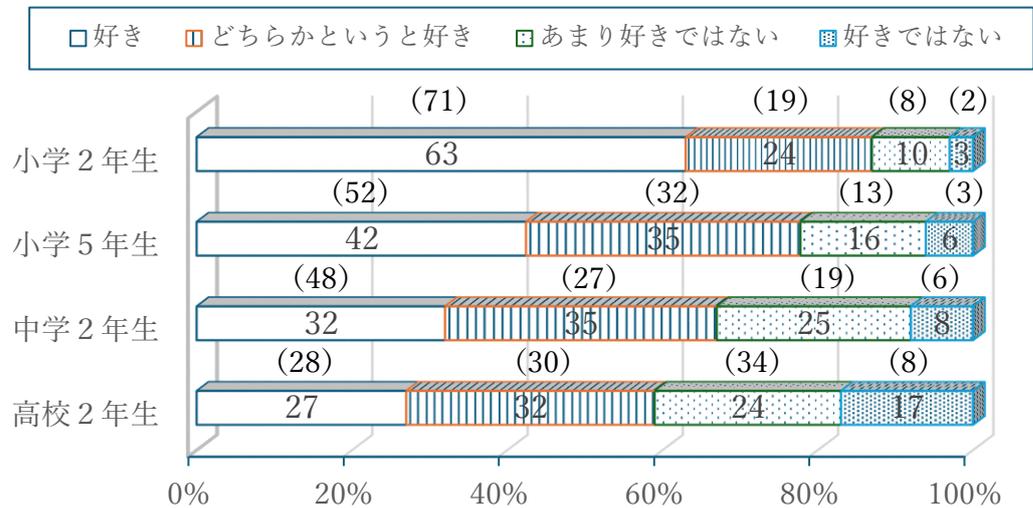
調査対象者	人数	前回
市内小学校2年生児童	658名	677名
市内小学校5年生児童	706名	654名
市内中学校2年生生徒	655名	560名
市内高等学校2年生生徒	186名	170名
市内小学校2年生児童保護者	191名	328名
市内小学校5年生児童保護者	183名	267名
市内中学校2年生生徒保護者	161名	168名

2 児童生徒の回答の学年別比較

※児童生徒にわかりやすいよう、学校図書館は「図書室」と表記。

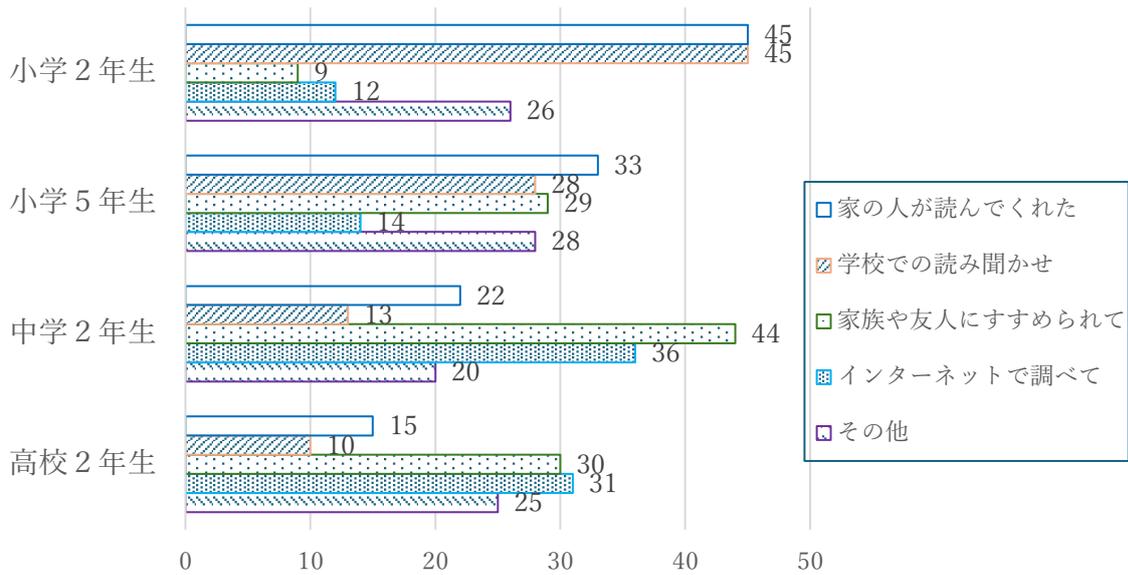
※ () 内は令和3年3月実施のアンケートによる数値

1 本を読むのが好きですか。



2 本を読むのが好きになったのはなぜですか。【複数回答可】

〔1で好き・どちらかというとき好きと回答〕

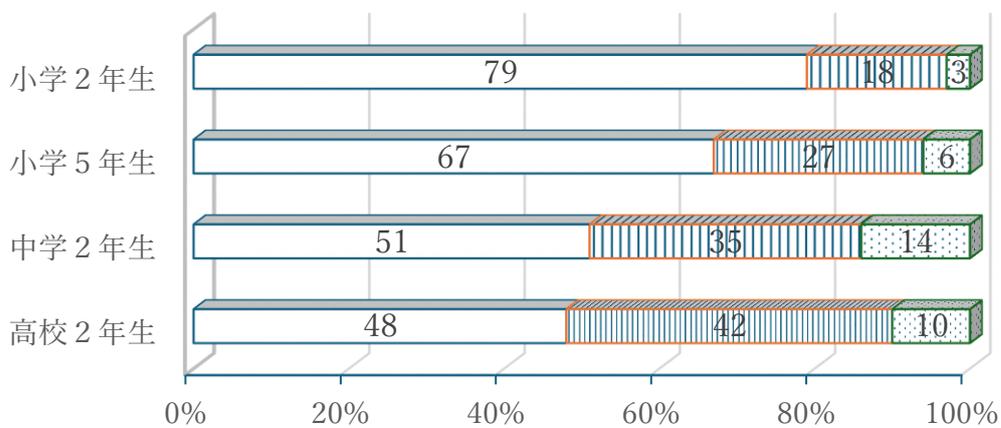
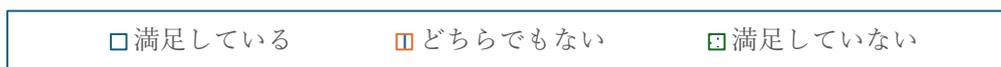


その他（小学2年生はタイピングができないため、入力なし）

小学5年生	学校の図書館で借りたら面白かった、アニメが好き、暇つぶしに読んでから
中学2年生	小学校の図書室、読んでみたら面白かった、アニメが好き
高校2年生	図書室に通った、中学の朝読書、面白いから

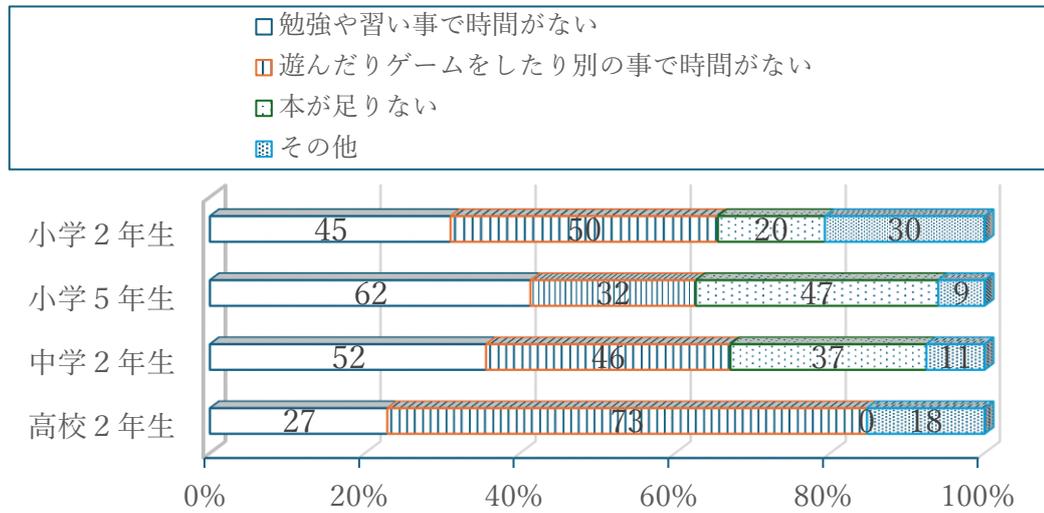
3 読書時間に満足していますか。（新）

〔1で好き・どちらかというとき好きと回答〕



4 読書時間に満足していないのはなぜですか。(もっと読みたいのに読めない理由)【複数回答可】(新)

〔1で好き・どちらかというとき好きと回答、3で満足していないと回答〕

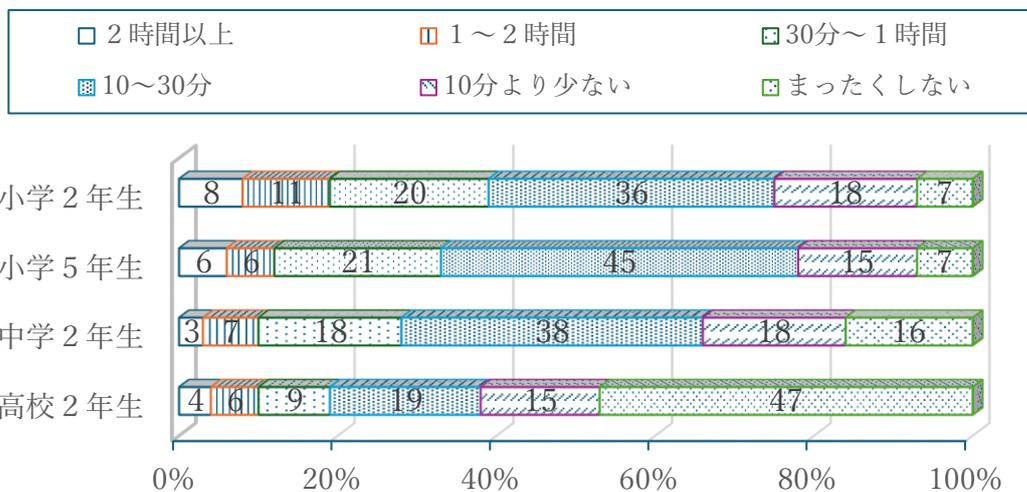


その他

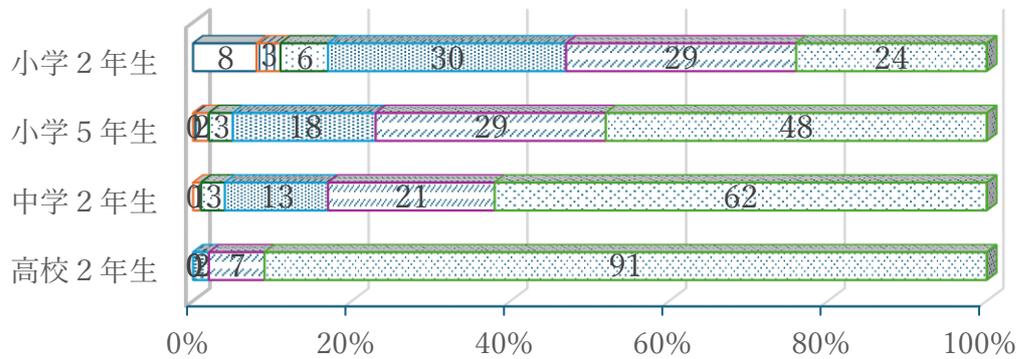
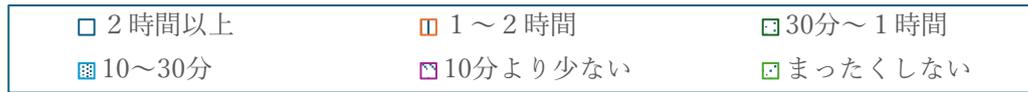
小学5年生	学校で読む時間が少ない、親が読ませてくれない
中学2年生	読書時間が短い、朝読書がなくなった、お金がない
高校2年生	朝読書がない、部活動が多忙

5、8 家や図書館(公民館、わろうべの里など)で、ふだん(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか。(教科書や参考書、マンガや雑誌はのぞきます。)

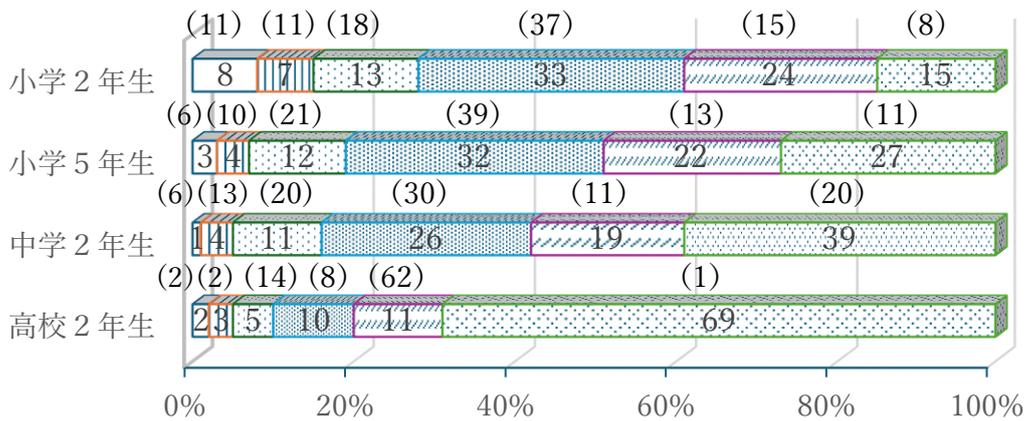
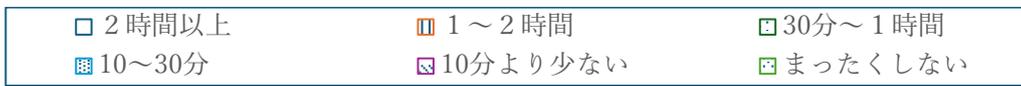
〔1で好き・どちらかというとき好きと回答〕



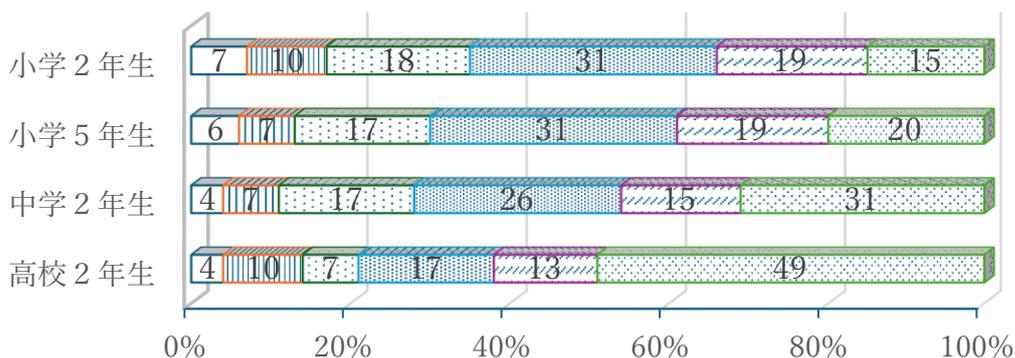
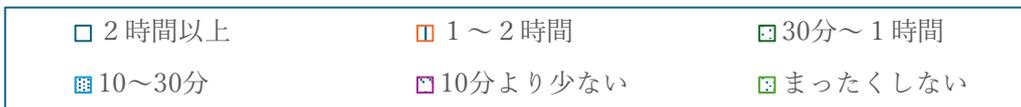
〔1であまり好きではない・好きではないと回答〕



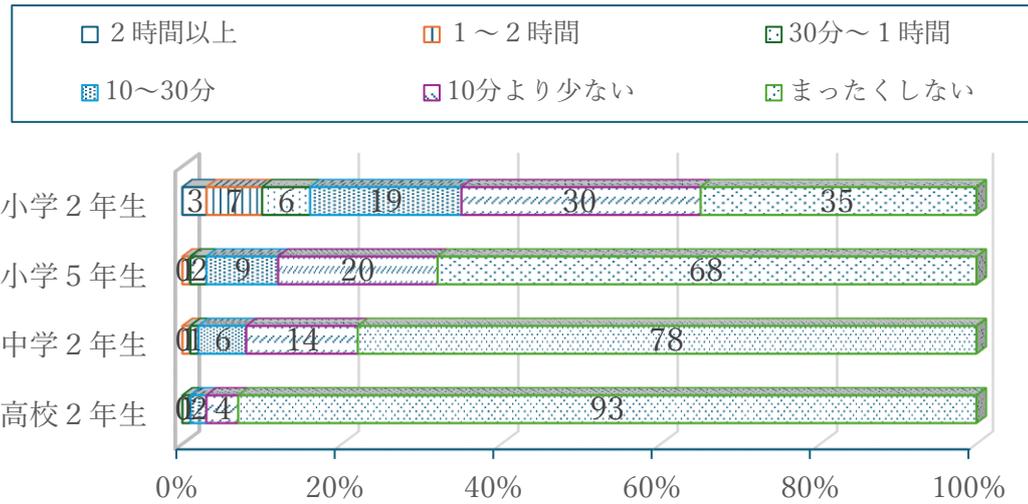
〔全体〕



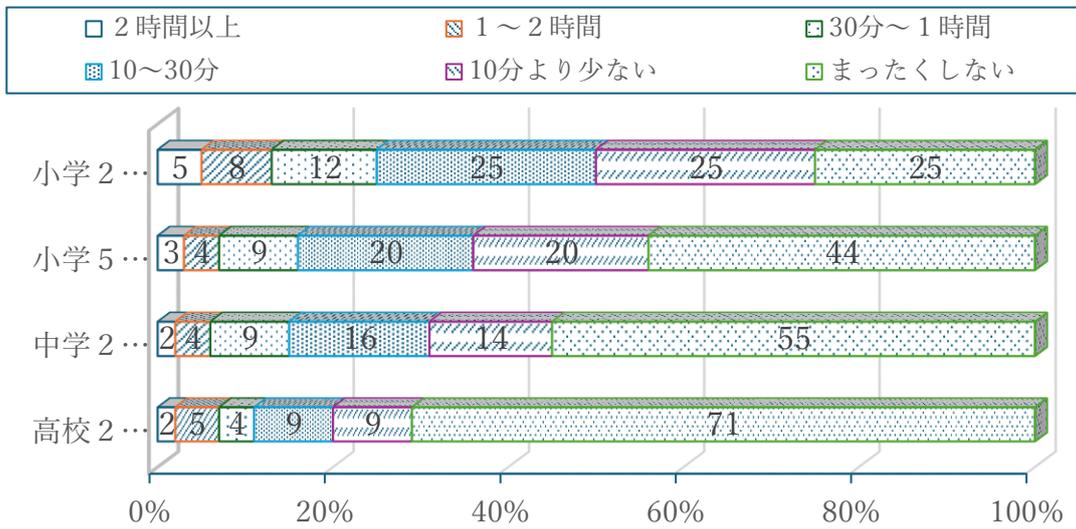
6、9 家や図書館（公民館、わろうべの里など）で、休日（土日、祝日）に1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか。（教科書や参考書、マンガや雑誌はのぞきません。）〔1で好き・どちらかという人喜欢いと回答〕（新）



〔1であまり好きではない・好きではないと回答〕

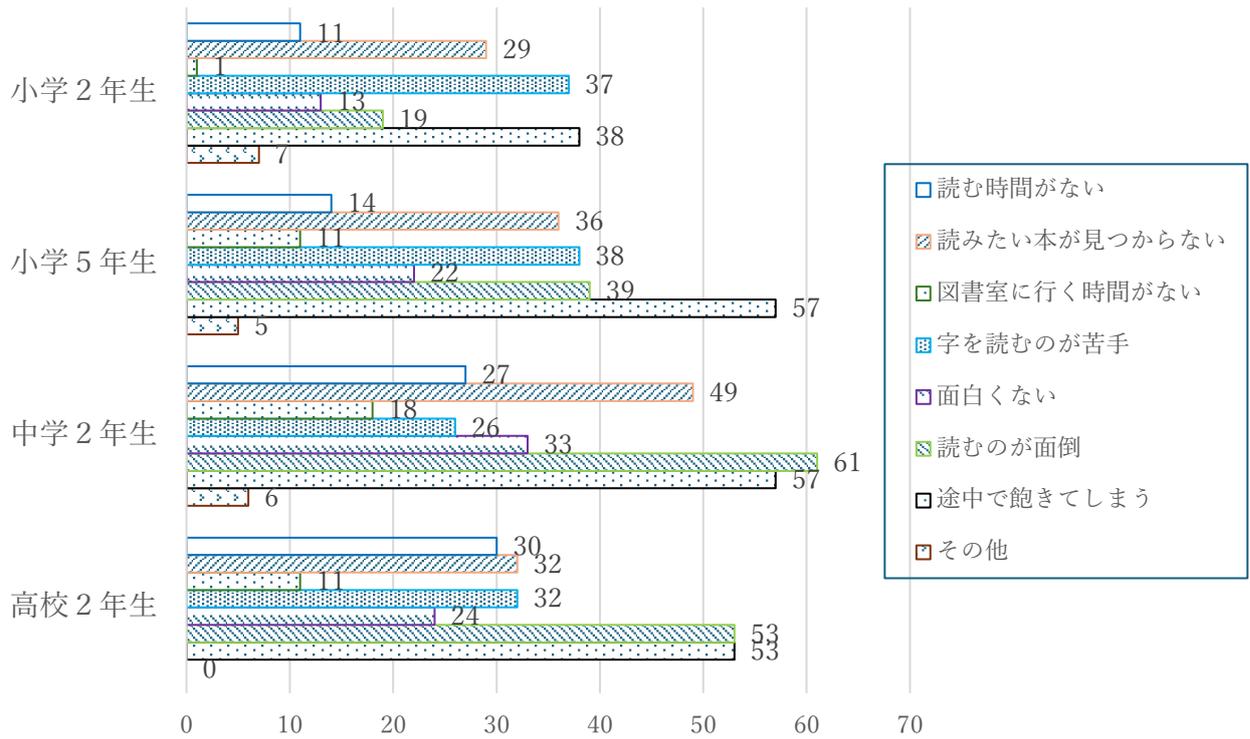


〔全体〕



7 本を読むことが好きではないのはなぜですか。【複数回答可】

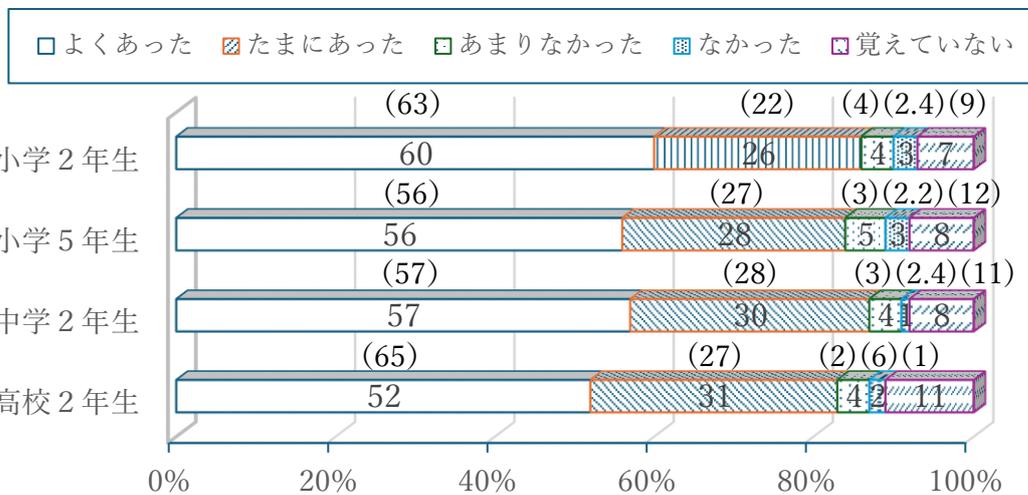
〔1であまり好きではない・好きではないと回答〕



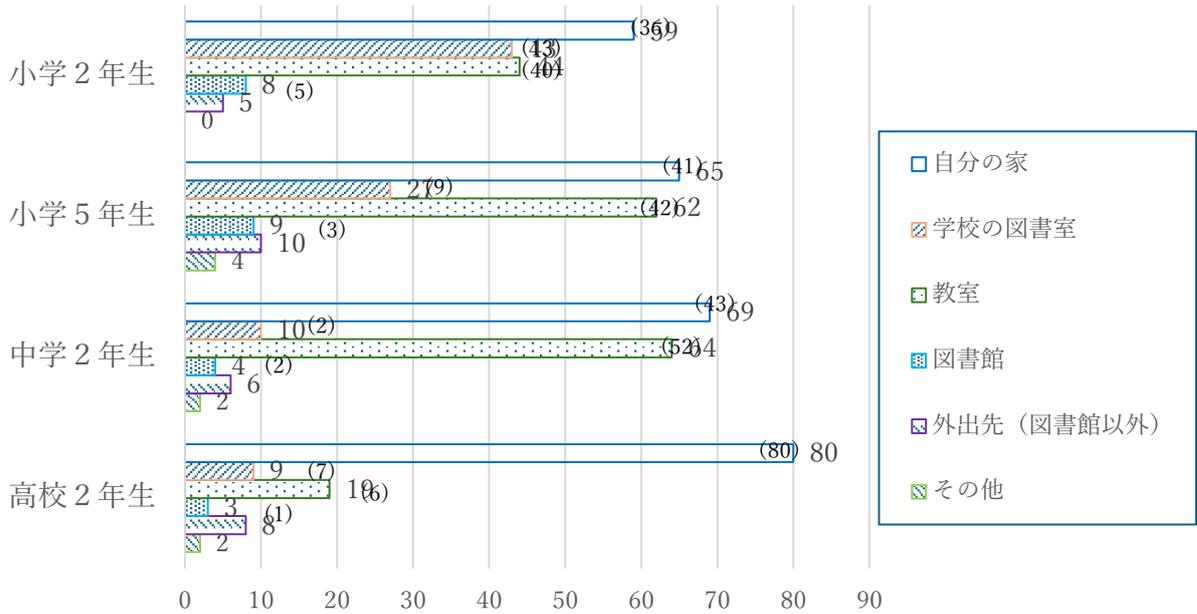
その他

小学5年生	急に話変わるとかあって意味不明、頭が痛くなる、つまらない
中学2年生	面倒、時間がもったいない、眠くなる
高校2年生	入力なし

10 あなたが小さいとき、家の人や保育園、幼稚園の先生などに本を読んでもらったことはありますか。



11 あなたは本を読むとき、どこで読むことが多いですか。【複数回答可】

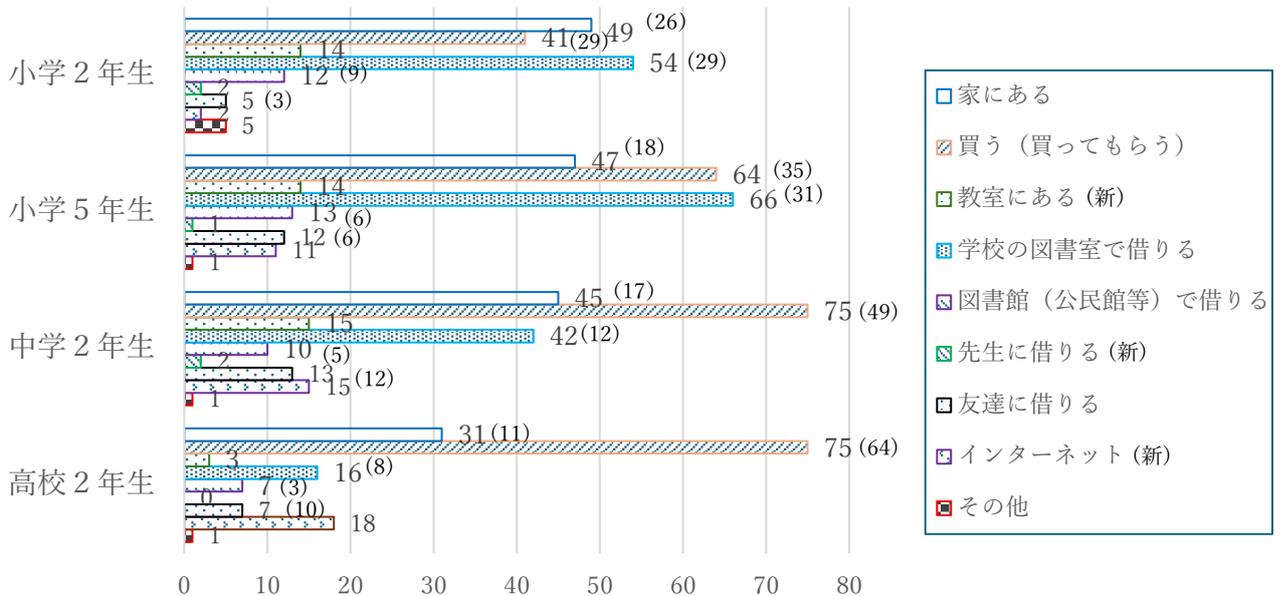


その他

小学5年生	祖父の家、移動中（車や電車）
中学2年生	移動中（車や電車）、待ち時間
高校2年生	移動中（車や電車）

12 あなたは本を読むとき、その本をどのようにして手に入れることが多いですか。

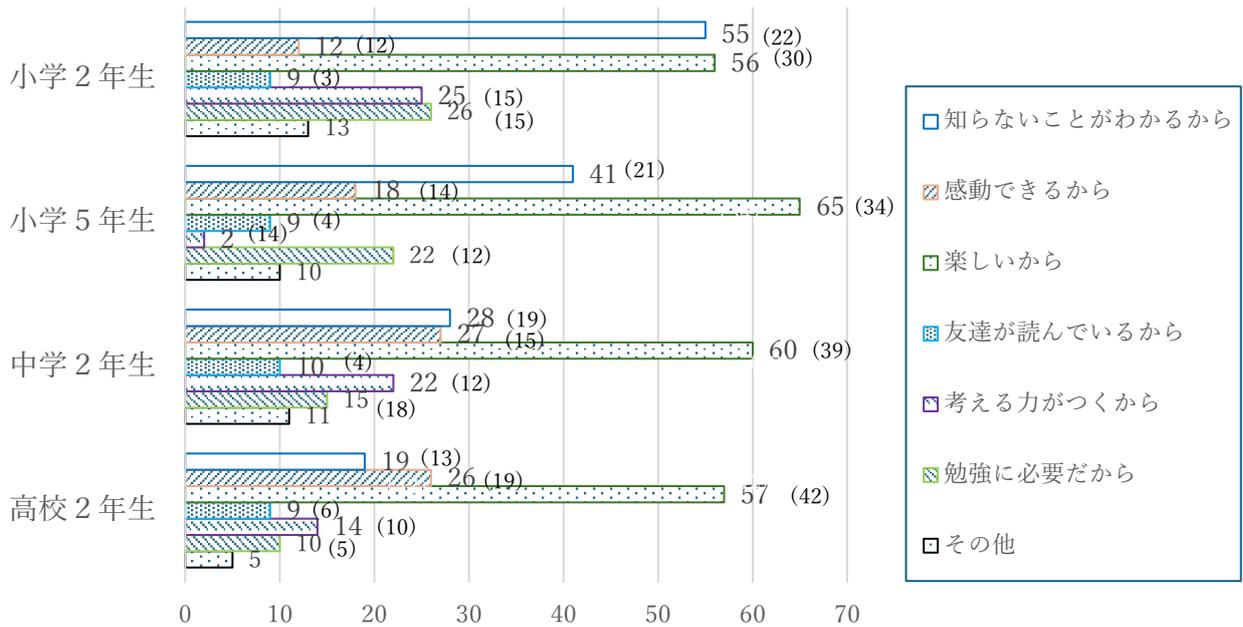
【複数回答可】



その他

小学5年生	家族に借りる
中学2年生	入力なし
高校2年生	入力なし

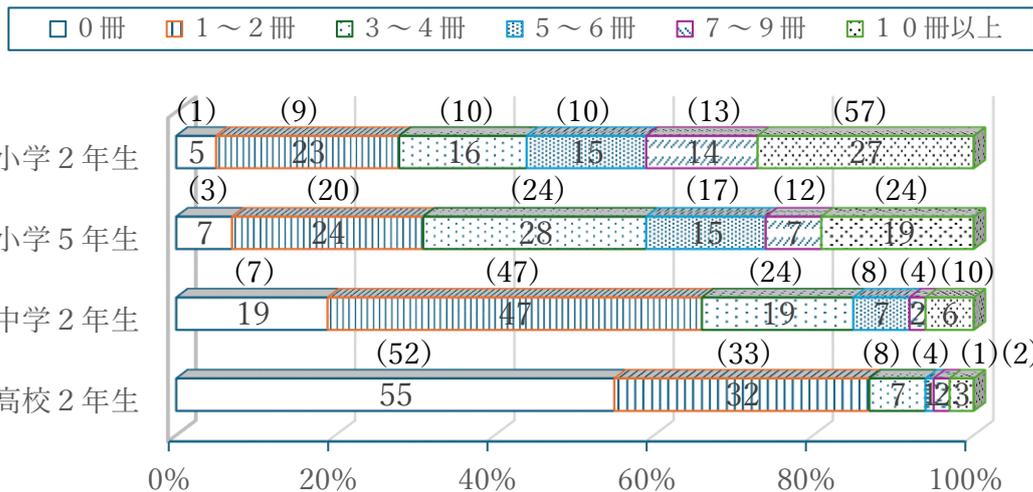
13 あなたが本を読むのはどうしてですか。【複数回答可】



その他

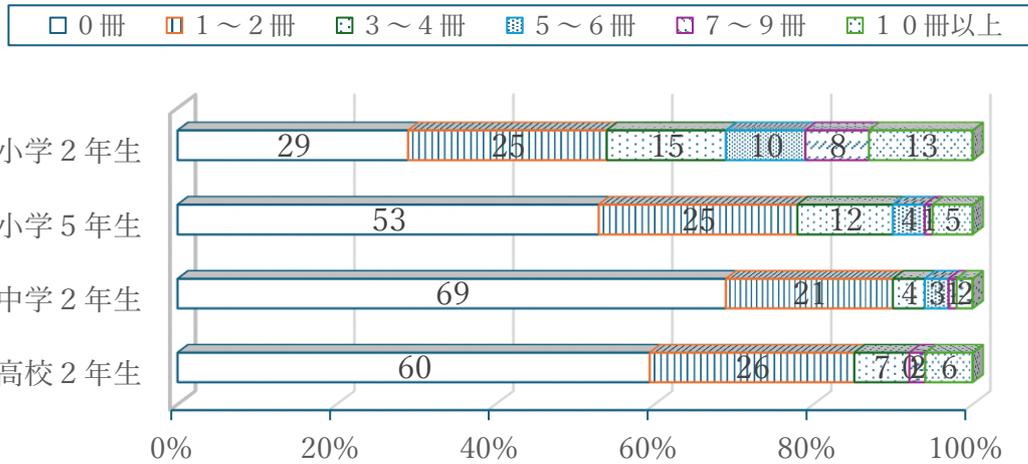
小学5年生	暇つぶし、親から勧められた、リラックスできる、朝読書がある
中学2年生	暇つぶし、学校で決められている、集中できる
高校2年生	親が読んでくれた、作家の心情がわかるようになった

14 あなたは最近1か月間に、本を何冊ぐらい読みましたか。(教科書や参考書、マンガや雑誌はのぞきます。読んでいる途中でも1冊に入れます。)

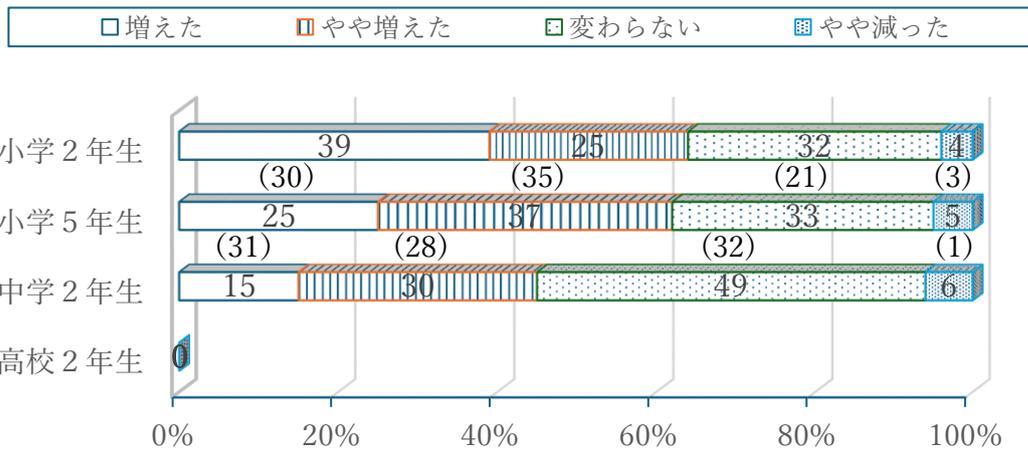


15 最近1か月間に読んだ本のうち電子書籍は何冊ありますか。(教科書や参考書、マンガや雑誌はのぞきます。)(新)

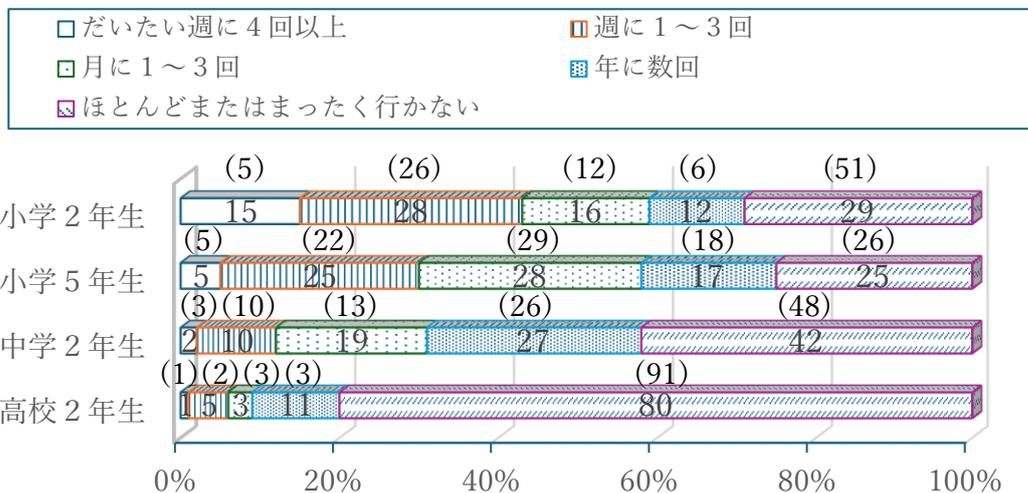
〔14で1～10冊と回答〕



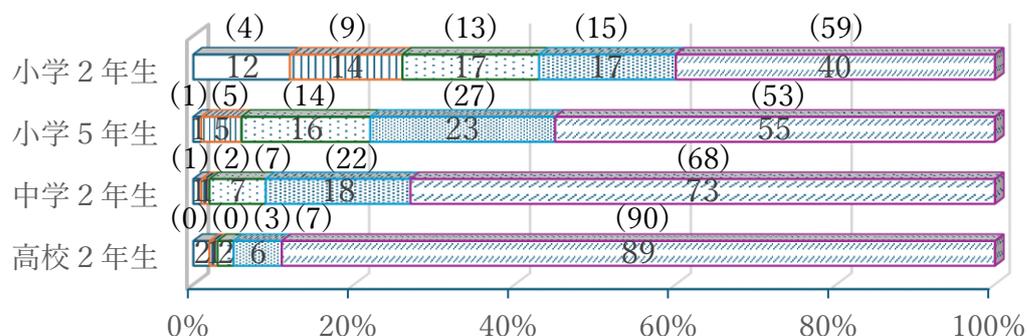
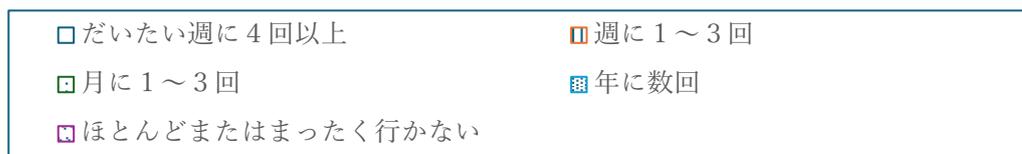
16 学校での読書タイムをきっかけとして、本を読む時間や回数が増えましたか。
※小中学生のみ



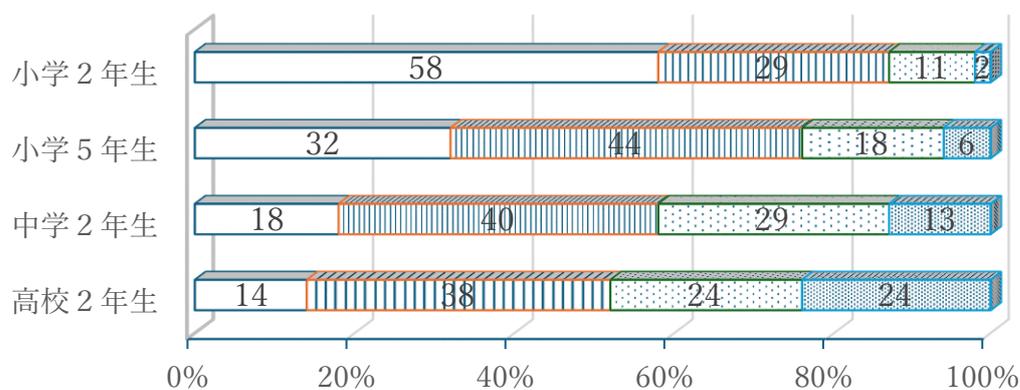
17 学校で、業間休みや昼休み、放課後に、図書室へどれくらい行きますか。



18 放課後や学校が休みの日に、本を読んだり借りたりするために、図書館（公民館やわろうべの里）へどれくらい行きますか。

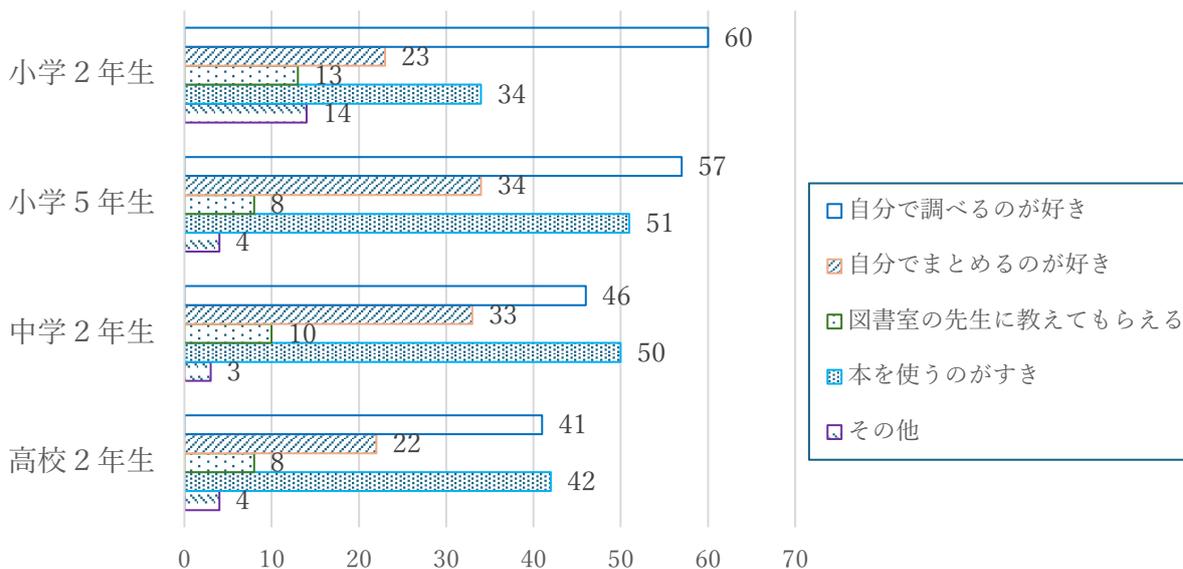


19 授業で本を使う学習活動は好き（楽しい）ですか。（場所は図書室でも教室でもどちらでもいいです。先生や学校司書がしてくれる読み聞かせや本の紹介なども含めます。）（新）



20 本を使う学習活動が好きな理由はなんですか。【複数回答可】

〔19で好き・どちらかという好きと回答〕(新)

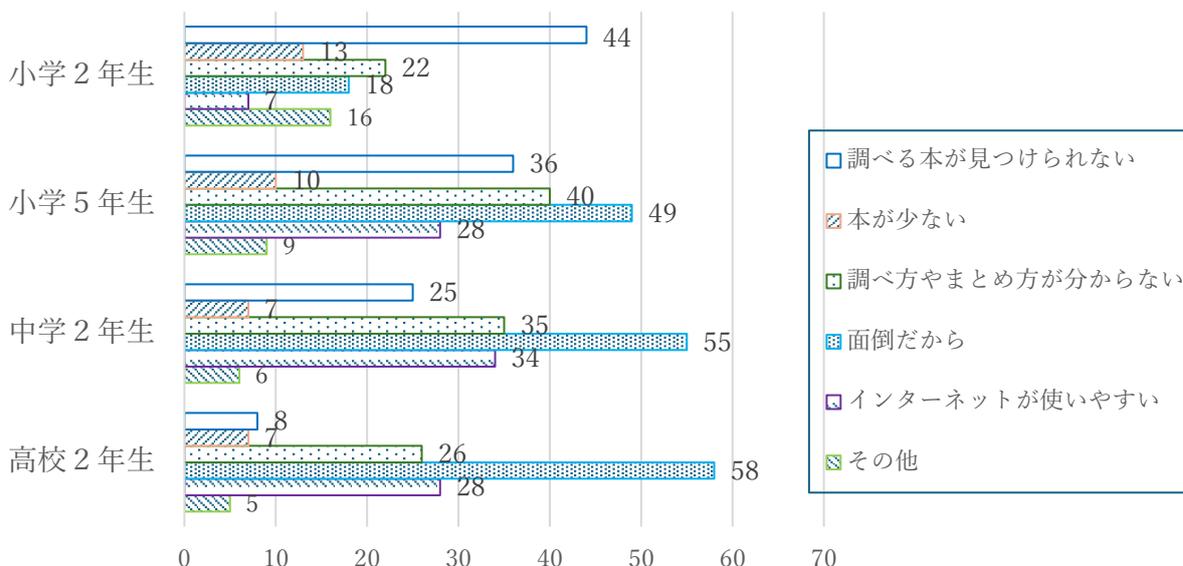


その他

小学5年生	本を選ぶのが楽しい、自分のペースで学習できる、読むのが好き
中学2年生	いろんな本を探すのが楽しい、授業より楽しい、読むのが好き
高校2年生	新しい本を知れるのが好き、文章を見て考えるのが好き

21 本を使う学習が好きではない理由はなんですか。【複数回答可】

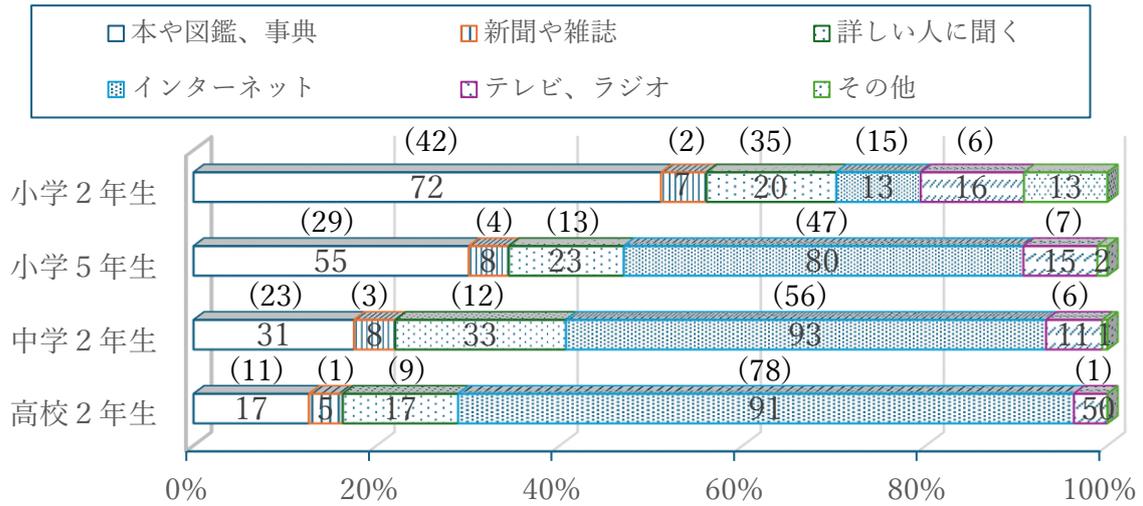
〔19であまり好きではない・好きではないと回答〕(新)



その他

小学5年生	学習ではなく静かに本が読みたい、読み方が分からない
中学2年生	AIの方がよい、古臭い、効率的でないと感じる
高校2年生	自分のペースで読みたい、面倒だから

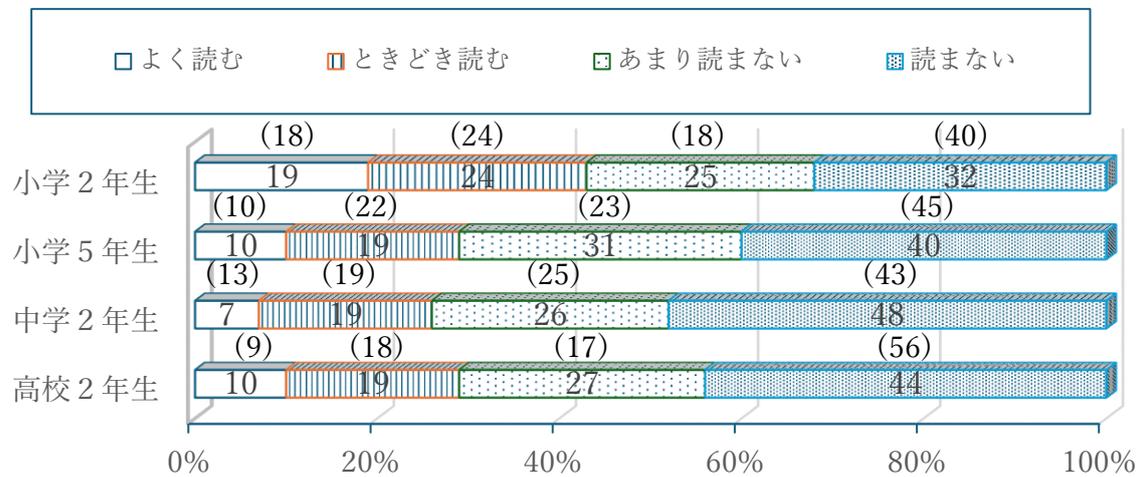
22 調べたいことがあるときに何を活用しますか。【複数回答可】



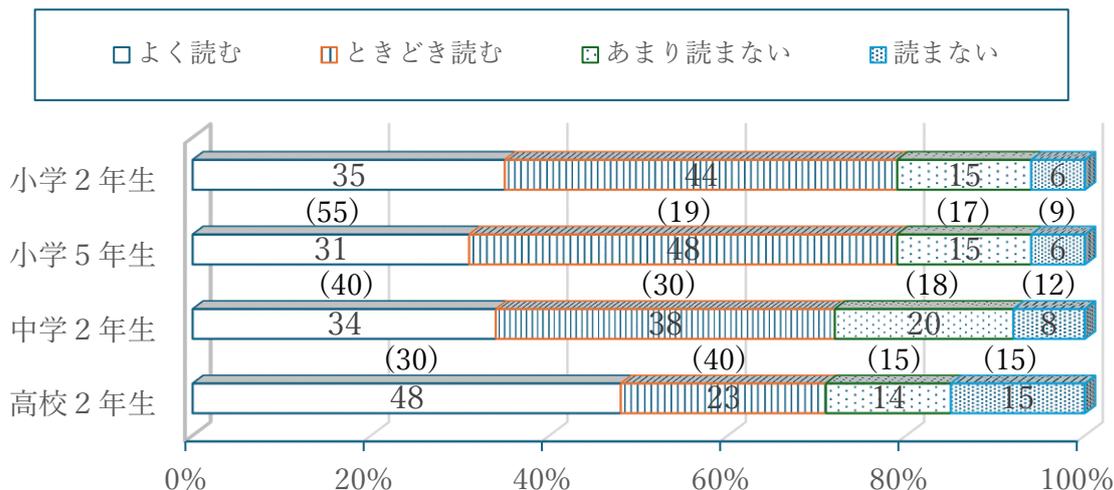
その他

小学5年生	家族に聞く、スマホ、実際に行く
中学2年生	チャット GPT、スマホ、教科書
高校2年生	入力なし

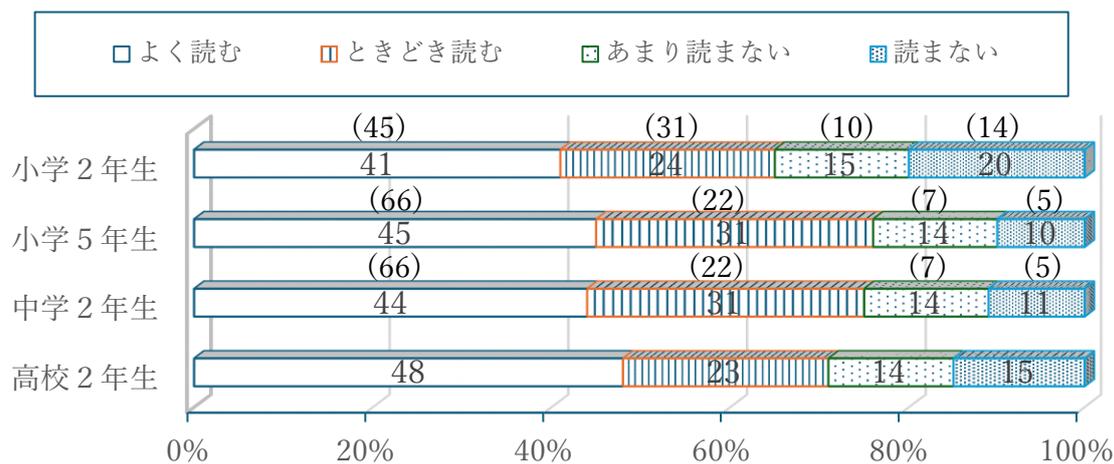
23 電子書籍を読んだことはありますか。(教科書や参考書、マンガや雑誌はのぞきます。)



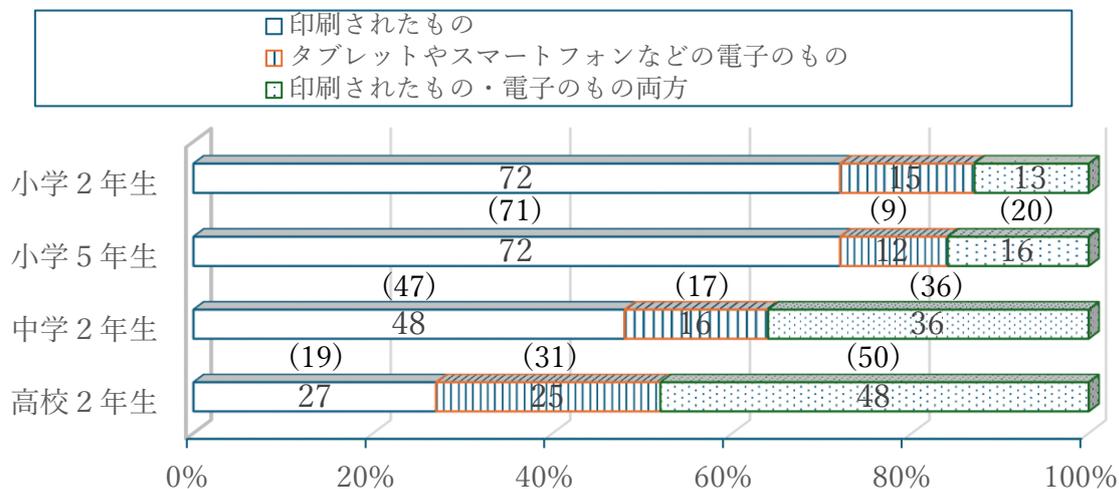
24 印刷された本も読んでいますか。〔23でよく読む・ときどき読むと回答〕



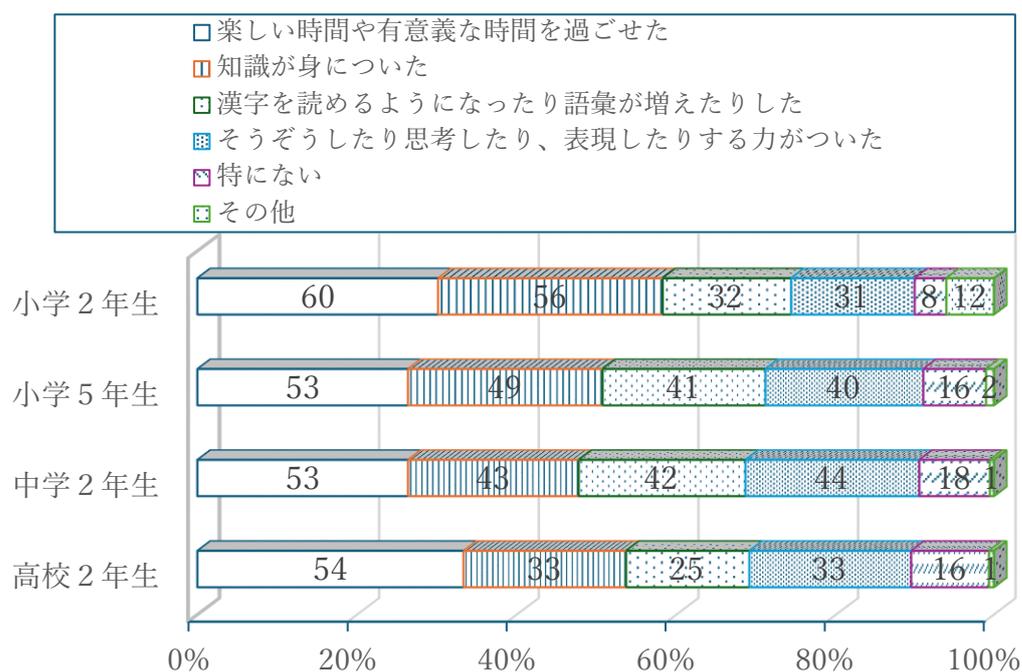
25 あなたは、マンガを読みますか。



26 なにでマンガを読みますか。〔25でよく読む・ときどき読むと回答〕



27 これまで読書をしてよかったことは何ですか。【複数回答可】（新）



その他

小学5年生	気分があがる、字を読むスピードが速くなった、集中力がついた
中学2年生	友達と話すことネタができた、暇つぶしになる
高校2年生	読む速さが速くなった

28 子どもたちが読書（本）に興味を持つためのアイデアや意見はありますか。
「～してほしい」、「～してはどうか」などあれば聞かせてください。

<p>小学5年生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットで本を読めるようにしてほしい。 ・「帯を作ってみよう。」→自分で帯を作ってみて実際の本に帯を付けて、本の魅力を伝えたい。 ・児童に定期的どのような本が欲しいか、アンケート等で聞く。 ・貸し出し本ランキングのポスターを作る。 ・大人が無理矢理子供に本を読ませるのではなく、自ら読むまで見守ってほしい。 ・短時間で読める本などを置いてあげる。 ・6時間目まで授業があると行けないから、市立図書館の1階の開館時間の時間を変更してほしい。 ・ポスターに面白そうと思って読もうとするような掲示物を作ればいい。 ・自分だけで読める空間がほしい。 ・まず漫画や絵本を読むと、本が好きになってくると思うので、本が苦手な人用に、漫画など多くする。 ・学校などで読む時間を増やしてほしい。 ・学校の帰りでも、図書室を使えるようにしてほしい。 ・学校の図書室を放課後まで開けていて、30分～60分ぐらい居残りをできるようにする。 ・月に1回ぐらいクラスにお勧めの本を2, 3冊貸し出したらどうかと思う。 ・小さいときに、お母さんにたくさん読み聞かせをしてもらって本に興味を持ったから、読み聞かせをたくさん増やした方がいいと思う。 ・週に1回図書室で、本を借りる授業をしてほしい。 ・図書祭りをひんぱんに開催するなど先生のオススメの本を発表する。 ・漫画やライトノベルコーナーを作る。(大きくする) ・友達に「この本が面白いよ」など、教えてあげる。
--------------	--

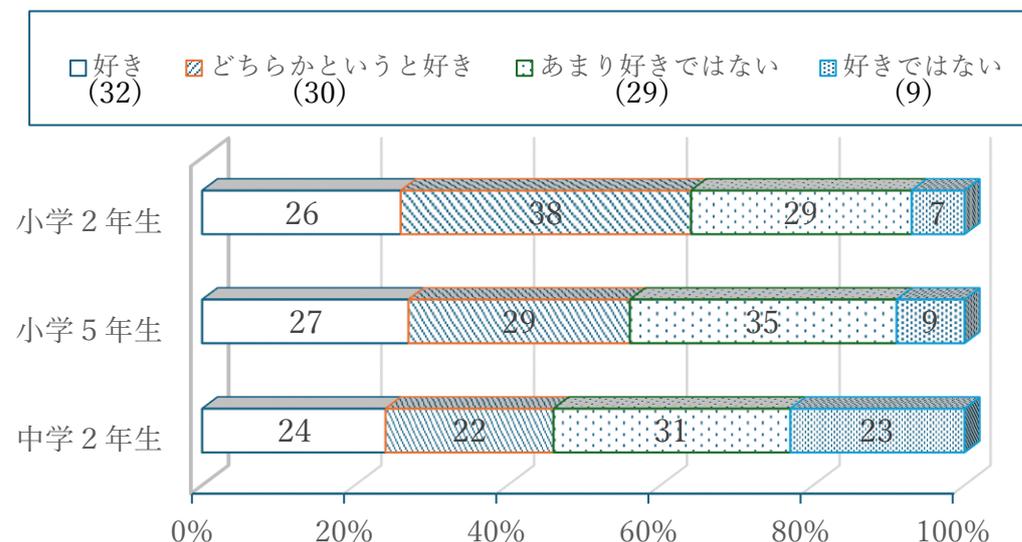
<p>中学2年生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本を読むことの利点についてまとめてポスターにして掲示する ・図書室、図書館で季節ごとにイベントを開催して、その季節がテーマの本をイベントで紹介する。 ・アンケートを作り、みんなの興味があるジャンルで、まだあまり読まれていない本、新着図書などの本を紹介する時間を作る。 ・学校の図書館の開館時間（市の図書館も）を長くしてほしい。 ・学校のタブレットで電子書籍を読めるようにしてほしい。 ・キャンペーン増やしてほしい。 ・ベルシャ語の本がほしい。 ・放課後にでも行けるように学校の近くに図書館を作ってほしいし、一人でも入りやすい環境にしてほしい。 ・もっと本を読む時間が欲しい！学校の朝読の時間でしか読まないからその時間をもう少し伸ばしてほしい。 ・街におすすめの本のポスターをはってほしい。 ・学校の図書室にもっと学習漫画等を置いたらもっと読書に興味を持つ人が出てくると思う。 ・学校の図書室を毎日開けてほしい。 ・ライトノベルの本を増やしてほしい。 ・市の図書館で全世代向けの読み聞かせをしてほしい。 ・授業で図書室に行く時間を増やしてほしい。授業で行く時間があると自然に本を読むようになると思う。 ・図書館みたいに、読みたい本が図書室にあるか、とか今貸し出し中かどうか、とか分かるようにしてほしい。 ・読書タイムを復活させ、子供たちが本を読む時間を作る。 ・本を読む習慣をつかせるなら漫画などの勉強には関係ない本でも許容してはどうかと思う。 ・流行った作品の作者コーナーを作ってほしい。
--------------	---

<p>高校2年生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットで電子書籍を読めるようにしてほしい。 ・どういう物語なのか帯を作る授業を設けたりする。 ・学校がある平日などは朝に10分でも本を読む時間があると習慣化され、本に触れる機会が増えると思う。 ・教室に本棚を作ってほしい。本は読みたいけど図書室へ行くのは面倒という人はいると思う。図書委員の仕事は増えてしまうが、アナログな空間があってもいいと思う ・国語の授業に組み込む ・子供たちに好きな本を自分で選ばせたらいいと思う。後は、読んだ本の感想を友達と話す場を設けるなど、物語の世界を体験出来る活動などと読書をつなげるといいと思う。 ・大人たちが楽しそうに読書してる所を見せるのもいいと思う。 ・中学までは読書をする時間があったので、高校でも読書をする時間があっても良いと思う。 ・部活やバイトがある人でも利用できる時間帯に開館してほしい。夜でも気軽に借りたり買ったりできる、本のコンビニみたいなものがあればいいなと思う。
--------------	---

3 保護者の回答を学年別比較

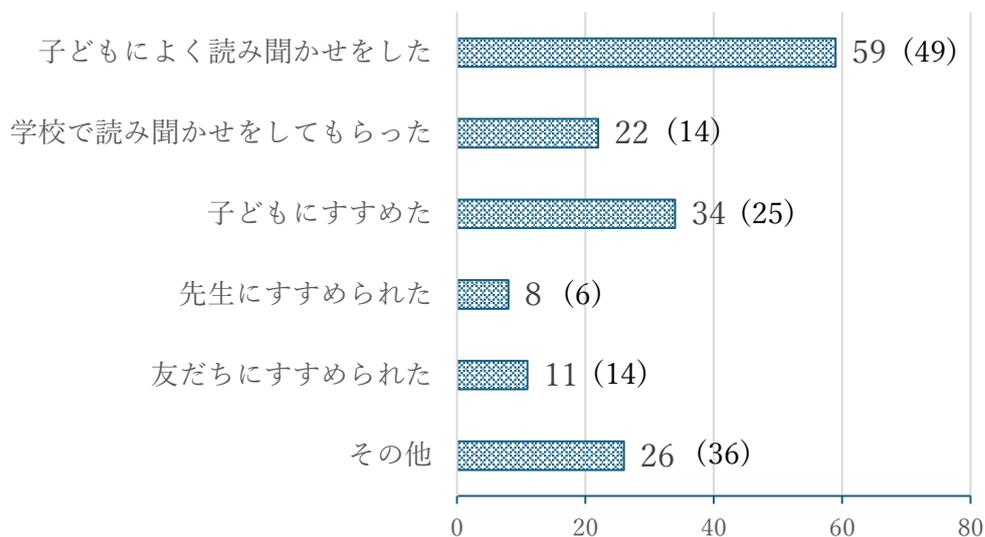
1 お子さんの学年を選んでください。

2 読書が好きだと思いますか。



3 なぜ、読書が好きなのだと思いますか。【複数回答可】

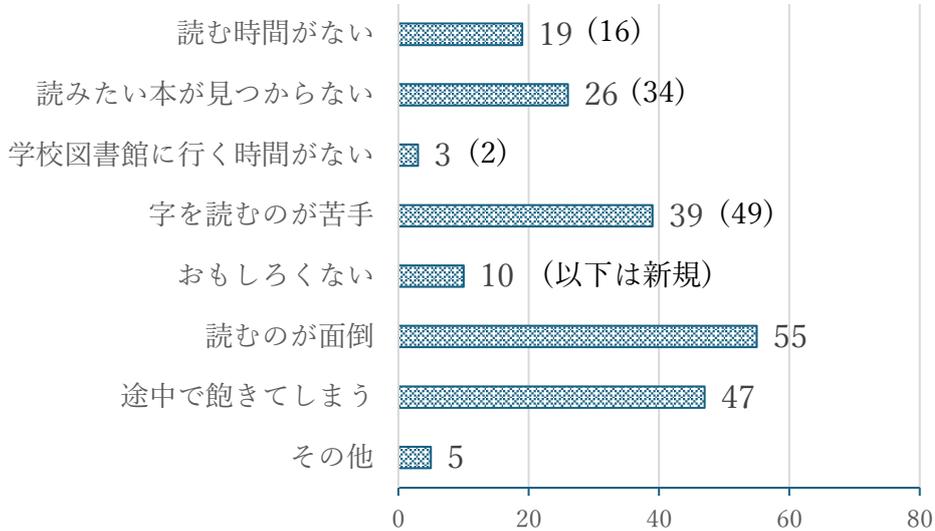
〔1で好き・どちらかという好きと回答〕



その他

- ・教室の図書コーナーがきっかけ ・よく図書館に行った
- ・家族が読書好き ・好きなキャラクターの影響 ・兄弟の影響
- ・保育園での読み聞かせ ・定期的に本屋へ行く

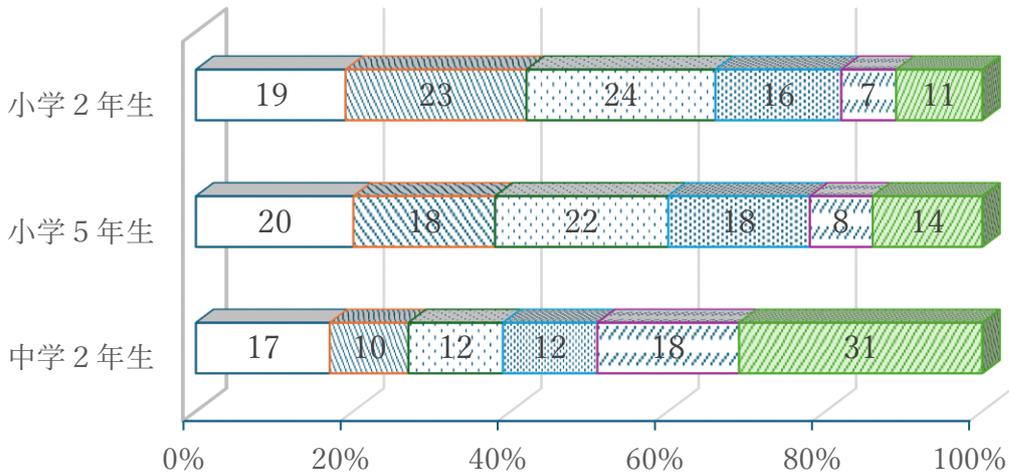
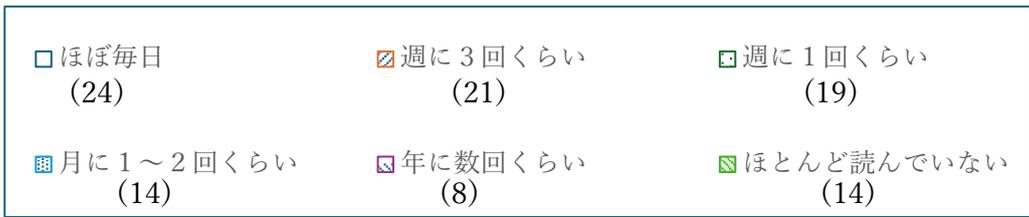
4 なぜ、読書が好きではないのだと思いますか。【複数回答可】
〔1であまり好きではない・好きではないと回答〕



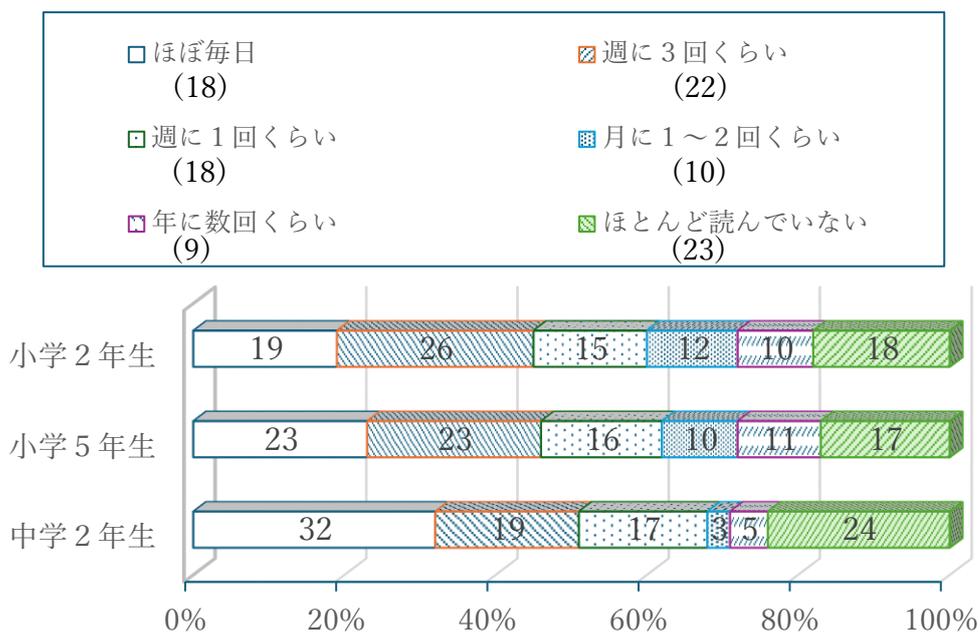
その他

・テレビやゲームが優先される ・マンガの方が手に取りやすい

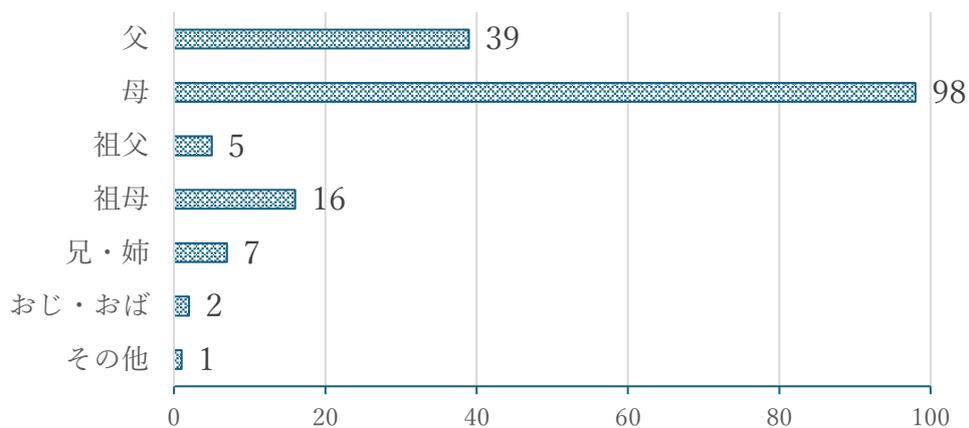
5 あなたのお子さんは、どのくらい本を読んでいますか。(教科書や参考書、マンガや雑誌は除きます。)



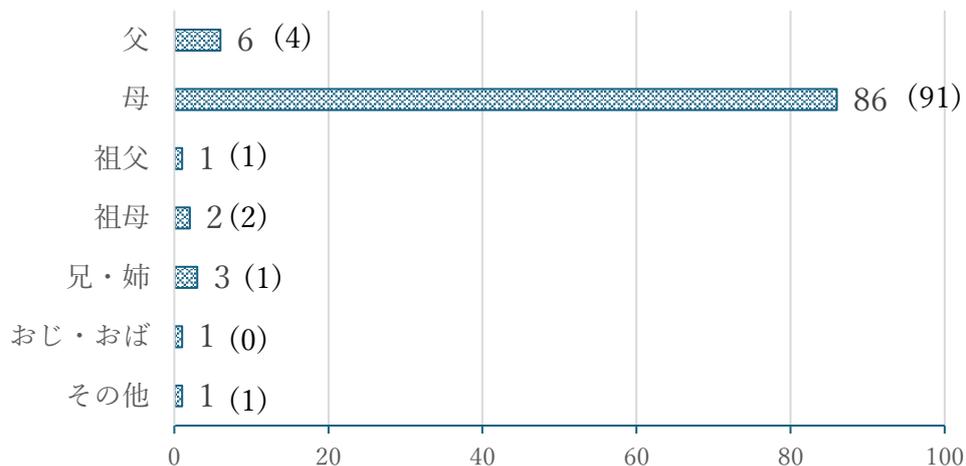
6 ご家庭では、お子さんにどのくらい本を読んであげていますか。（お子さんが小さかった頃も含めて）



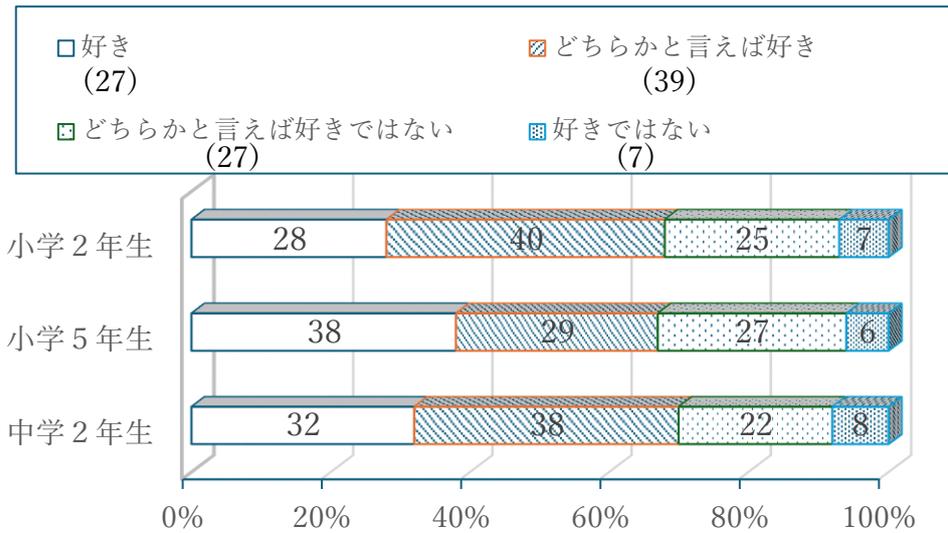
7 ご家庭では、どなたが、お子さんに本を読んであげていますか。（お子さんが小さかった頃も含めて）【複数回答可】〔6でほとんど読んでいない以外で回答〕（新）



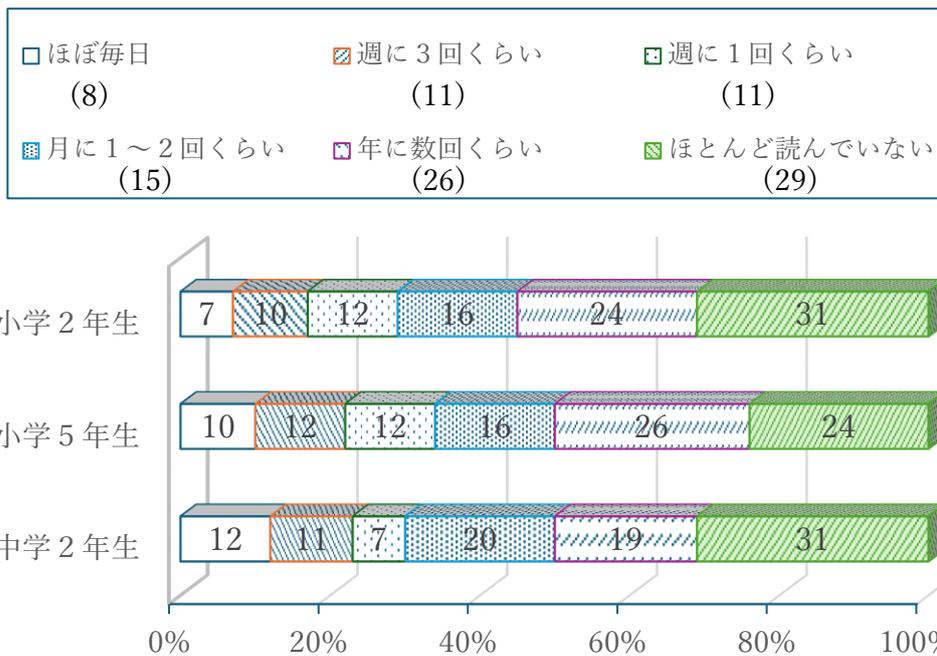
8 主にどなたが読むことが多いですか。



9 あなた自身は、読書が好きですか。

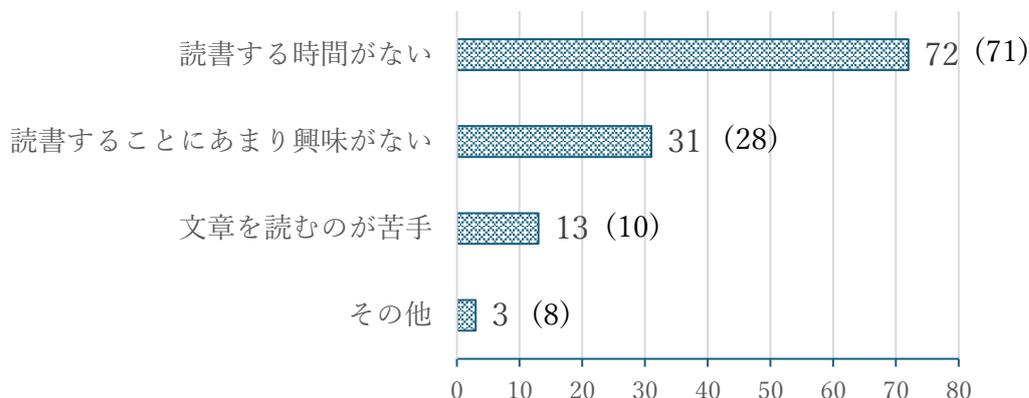


10 あなた自身は、ご家庭でどのくらい本を読んでいますか。



11 年に数回、ほとんど読んでいない理由はなんですか。

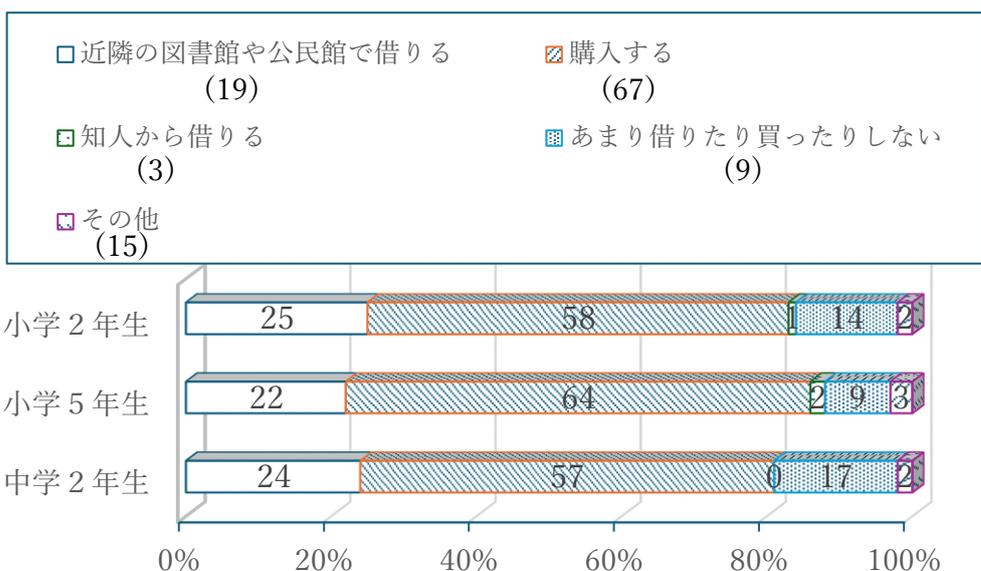
〔10 で年に数回、ほとんど読んでいないと回答〕



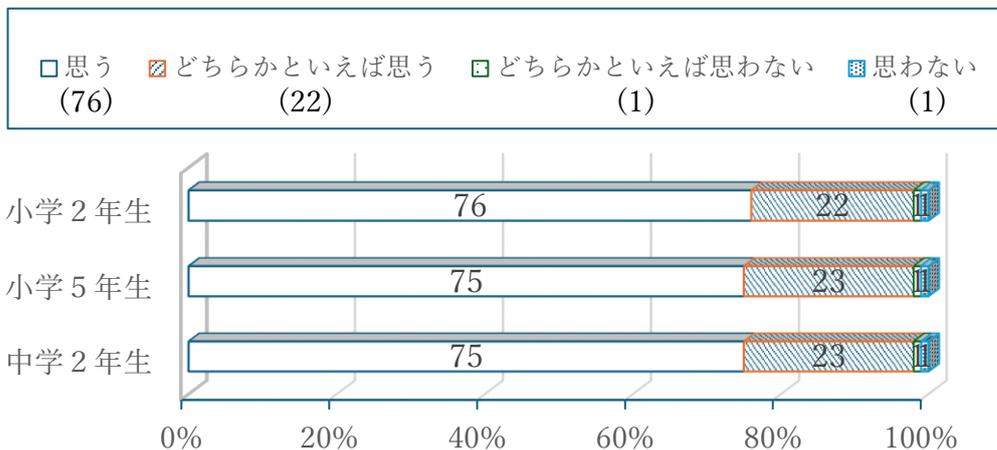
その他

・ SNS で情報が得られる ・ 読みたいと思う本に出会えていない

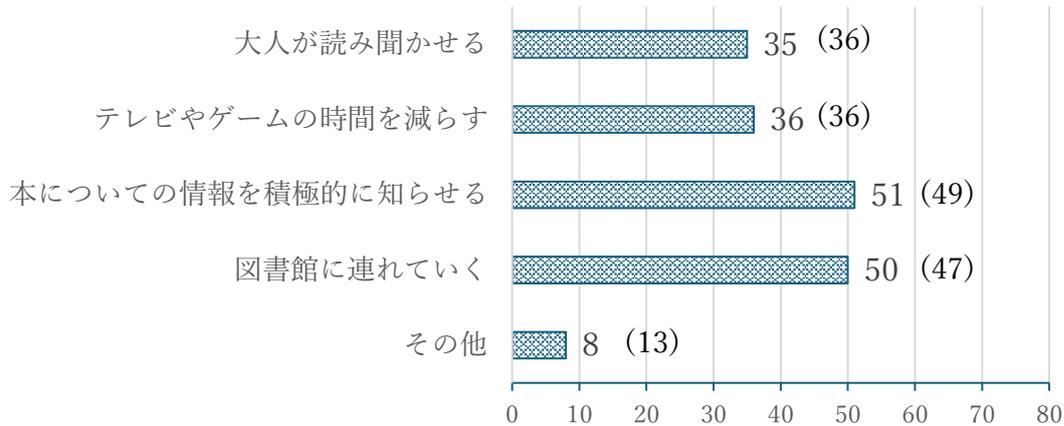
12 あなたは本をどのようにして入手しますか。（一番多い方法を選んでください）



13 あなたは、本を読むことが大切だと思いますか。



14 あなたは、どうすれば子どもたちがもっとよく本を読むようになると思いますか。【複数回答】

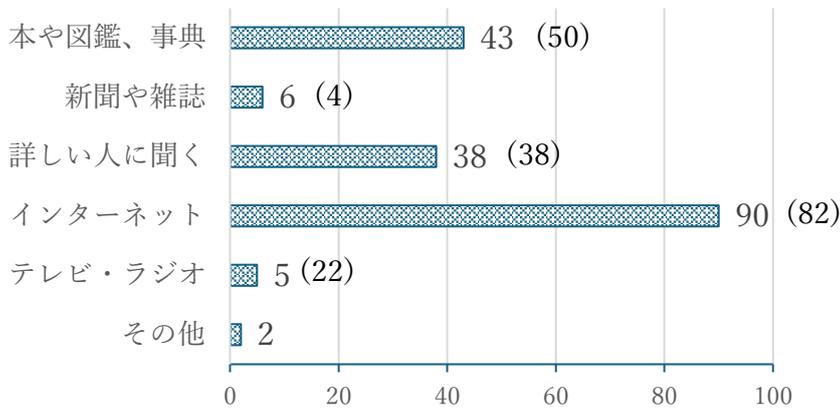


その他

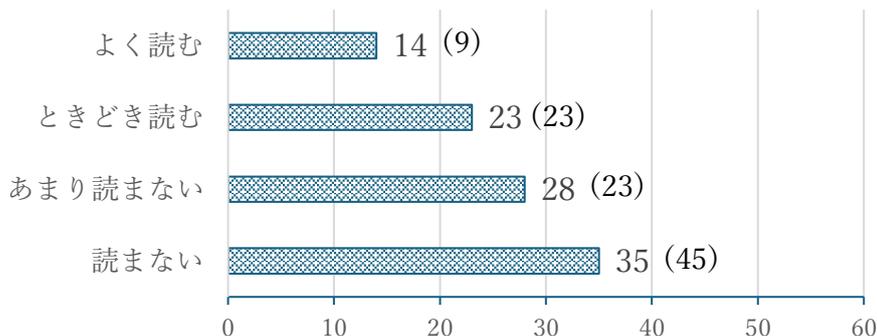
- ・自分が楽しいと思える本に会えるような仕組みが身近にあるとよい
- ・いつも手の届くところに本がある環境
- ・大人も本を楽しむ ・定期的に本屋へ連れていく
- ・個人差があるから強要しない方がいい ・好きになるまで待つ

15 あなたのお子さんは、調べたいことがあるときに何を活用していますか。

【複数回答可】

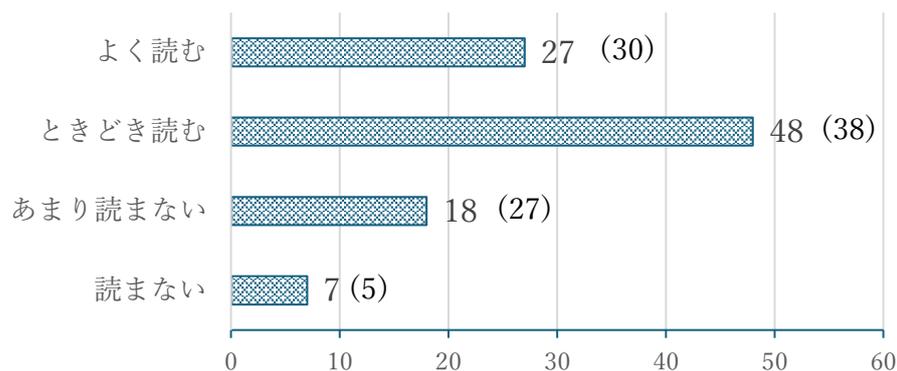


16 あなた自身は、電子書籍を読んだことはありますか。

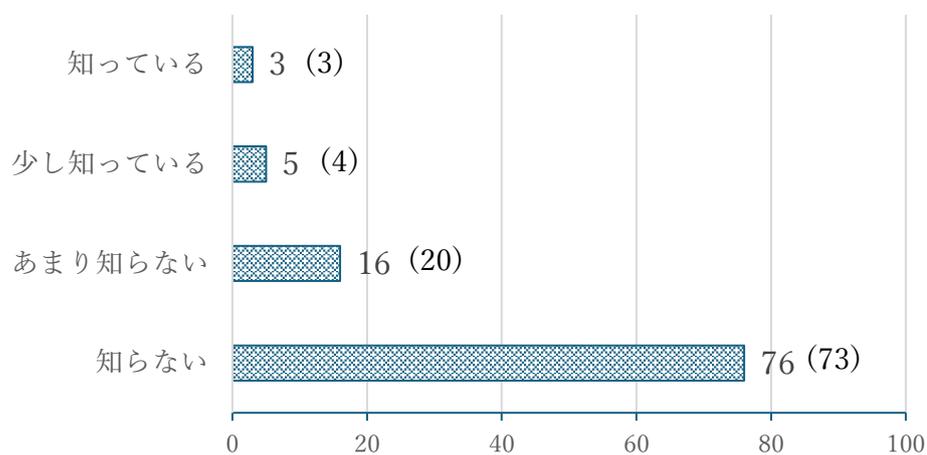


17 よく読む、ときどき読むと回答した方は、印刷された本も読んでいますか。

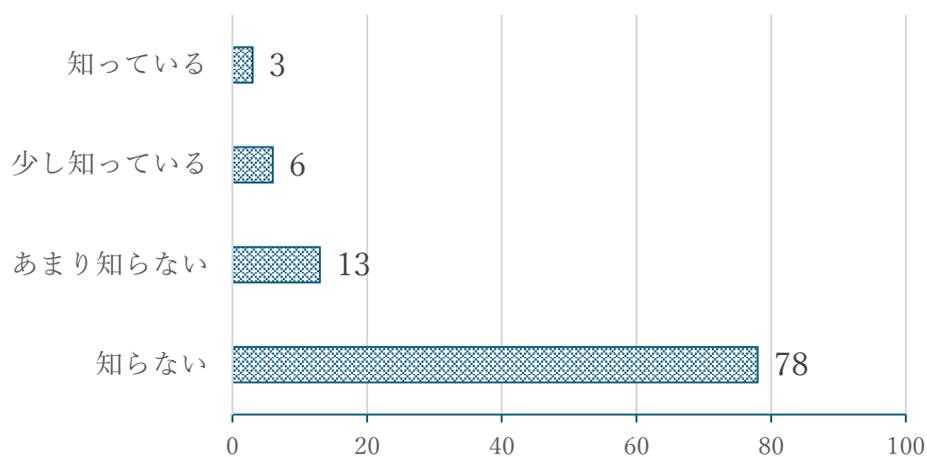
〔16でよく読む、ときどき読むと回答〕



18 小学生の保護者にお聞きします。四街道子どもブックリスト（小学生版）を知っていますか。



19 中学生の保護者にお聞きします。四街道子どもブックリスト（中学生版）を知っていますか。（新）



第1章 第四次計画における成果と課題

※網掛け部分については、今後最新の数値に差し替えます。

本市では、平成19年度末に第一次子ども読書活動推進計画を策定し、図書館や行政関係課や学校、幼稚園、保育園（所）等で諸施策を進めてまいりました。

第五次計画策定にあたり、児童生徒と保護者を対象に読書に関するアンケート（※1）を行いました。このアンケート結果によると、小学校2年生の87%、小学校5年生の77%、中学校2年生の67%、高校2年生の59%が「本を読むことが好き」と答えています。千葉県子ども読書活動推進計画（第五次）策定に向けたアンケートの調査結果（※2）の読書が好きな子どもの割合（小学校6年生68%、中学校2年生66%、高校2年生68%）と比較すると、学年が異なっているため単純な比較はできませんが、小学生は数値が高く、中学生はほぼ同じ、高校生は低い傾向と言えます。しかし、令和2年度末に実施した本市の第四次計画策定に向けたアンケートの結果と比較すると、小学生、中学生、高校生ともに読書が好きな子どもの割合が減少しています。

また、1か月に1冊も本を読まなかった子どもの割合を見ると、小学校2年生が4.9%、5年生が6.8%、中学校2年生が19.1%と、令和2年度末と比較すると各学年でかなり高くなっており、子どもたちの読書離れが心配される状況となっています。

一方、子どもの読書環境を支える体制の強化という面からみると、乳幼児に向けたセカンドブック事業（2歳6か月児歯科健診時）の開始や図書館による本に親しむ機会の提供の充実、小中学校の学校図書館の蔵書冊数達成率の向上、学校司書の配置拡充、図書館における幼稚園・保育園（所）・認定こども園、学校への団体貸出資料貸出冊数の増加等、物的環境、人的環境を含め、多くの成果を上げることができました。

「読書環境を支える体制が整ってきている」という成果と、「読書の好きな子どもの割合が減少している」という課題を併せて考えると、子どもたちを取り巻く環境の変化により、読書に興味・関心の高い子どもとそうでない子どもの差が大きく開いてきているのではないかとということが考えられます。

子どもたちを取り巻く環境の変化としては、例えば、スマートフォンやタブレットが子どもたちにとってより身近なものとなり、SNSや動画を視聴する時間の増加により読書をする機会が減っていることや、家庭では仕事や家事に忙しい保護者が増え、親子でゆっくりと本に親しむ時間をとることが難しくなっていること等が挙げられます。

前述の読書に関するアンケートの結果では、これまで読書をしてきてよかったこととして、「楽しい時間や有意義な時間を過ごせた」「知識が身に付いた」と多くの子どもが回答していました。

第五次計画では、どの子どもも読書の楽しさや良さを体験することができるよう、幼稚園・保育園（所）・認定こども園、学校では、子どもたち個々の読書の状況を把握し、ニーズに応じたきめ細やかな働きかけができるよう、これまで以上に工夫していく必要があります。

また、家庭・学校・地域がそれぞれの役割を果たし、連携しながら読書環境の充実を図ることを目指すとともに、読書に関する情報発信に重点を置いていくことも大切です。

第四次計画の成果と課題を踏まえ、子どもたちを取り巻く環境の変化を考慮しながら事業を見直すことで、より一層の読書活動の推進を図っていきます。

※1 令和7年10月実施 全小学校2年生、5年生、全中学校2年生とその保護者、市内高等学校2年生対象

※2 令和7年1月実施 県内小学校6年生、中学校2年生、高等学校2年生対象（抽出）

1 目標とする数値について ※ () は第四次計画の令和8年度目標数値

(1) 図書館・公民館における児童書貸出冊数 ※3)

(令和6年7月より、南部総合福祉センターでも貸出開始)

平成27年度	令和元年度末	令和6年度末 (目標値)
86,661冊	102,033冊	101,546冊 (110,000冊)

(2) 学校図書館における児童生徒一人あたりの貸出冊数 ※3)

	平成27年度	令和元年度末	令和6年度末 (目標値)
小学生	37.5冊	46.2冊	48.5冊 (50冊)
中学生	7.8冊	8.4冊	8.3冊 (10冊)

(3) 1か月に1冊も本を読まなかった子どもの割合

	平成27年度	令和2年度末	令和7年度 (目標値)
小学校2年生	2.1%	1.1%	4.9% (0.5%以下)
小学校5年生	4.7%	3.0%	6.8% (2.5%以下)
中学校2年生	5.9%	6.9%	19.1% (6.5%以下)

(4) 図書館における団体貸出資料の貸出冊数 (児童書)

(団体とは、幼稚園・保育園 (所)・認定こども園、学校を指す)

平成27年度	令和元年度末	令和6年度末 (目標値)
5877冊	11,329冊	11,658冊 (12,000冊)

※3 (1)、(2)、(4)については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和2年度の数値ではなく、令和元年度とした。

2 成果

①図書館、公民館、市役所関係各課、幼稚園・保育園 (所)・認定こども園、学校等による読み聞かせの場の提供が子どもの読書への興味、関心を高めている。

読書に関するアンケートでは、特に小学生において、読書が好きな理由に「読み聞かせ」が多く挙げられました。このことから、幼少期の家庭での読み聞かせの他、幼稚園・保育園 (所)・認定こども園、学校等における職員や読書ボランティアによる読み聞かせが、子どもたちの本への興味、関心に大きな影響を与えていることがわかりました。図書館や関係各課、幼稚園・保育園 (所)・認定こども園、学校等における読み聞かせの場の継続的な提供が家庭教育への大切な取組として啓発にもつながり、成果として表れたと考えられます。

図書館は、R7年度末は11000冊に届かない可能性があります。学校図書館もR6年度末は中学生については増えていないため、現段階では成果としない方向です。R7年度末の数値が上がっていた場合は、追加を検討したいと考えています。

~~②図書館、公民館や学校図書館における児童書の貸出冊数が増えている。~~

~~図書館においては、児童室の施設の整備や絵本架の購入などを行いました。また、図書館のPRやイベントの実施、移動図書館の小学校巡回などが、貸出冊数の増加につながったと考えられます。さらに団体貸出については、利用団体が増え、令和6年度末には11,658冊 (令和元年度末11,329冊) と増加しました。~~

~~学校図書館においては、司書教諭 ※4) や図書館主任、学校司書 ※5) を中心とした図書分~~

~~類を意識した購入図書を選定、行事や季節に合わせたブックコーナーの設置等、読書活動の積極的な取組により貸出冊数が増加しています。~~

~~※4 司書教諭養成の講座を修了し、資格を取得した教員~~

~~※5 校長の指示に基づき、教職員と連携しながら、学校図書館の環境整備、蔵書の管理等への支援、児童生徒の学校図書館の利用や読書に関する授業及び指導への支援等を行う市会計年度任用職員~~

②学校図書館を積極的に活用し、授業において本を使った学習活動が行われている。

第四次計画では、小中学校での取組の中で、授業における学校図書館の活用を重点にしてきました。優良・優秀学校図書館認定調査(※4)によると、市内小中学校全校で学校図書館全体計画が作成され、「年間指導計画に基づいて、各学級・学年とも授業において学校図書館を活用しているか」については、全校が「達成している」「おおむね達成している」と回答しています。各教科の調べ学習やブックトークなど児童生徒の実態に応じた取組が年間を通じて積極的に行われています。図書館活用状況アンケート(※5)においても、全小中学校から学校図書館を活用していると回答があり、主に、国語科や社会科、総合的な学習の時間の授業で学校図書館の本を使った学習活動が行われていました。

読書に関するアンケートでは、授業における本を使う学習活動について、「好き」「どちらか」というと「好き」という肯定的な回答をした割合が小学生で約80%、中学生で約60%となっています。好きな理由として、「本を使うのが好き」「本を選ぶ(探す)のが楽しい」「新しい本を知ることができる」等が挙げられていることから、本を使う学習活動がさまざまな本に触れる大切な機会となっていることがわかりました。

※4 令和7年7月実施 全小中学校対象 学校での読書指導及び学校図書館を活用した学習の充実を図り、読書好きな子どもを育成し、学力の向上に生かすことを目的とした調査

※5 毎年11月実施 全小中学校対象

③学校司書の配置拡充により、教職員との連携が強化され、各学校での読書活動の充実につながった。

令和6年度から学校司書(※6)の勤務時数の増、令和7年度からは大規模校の配置日数の拡充により、学校司書と司書教諭(※7)や図書館主任をはじめとする教職員との情報共有や打ち合わせの時間が確保され、より円滑に各学校の実態に応じた活動に取り組めるようになりました。学校司書による授業支援や、学校図書館の環境整備、児童生徒のニーズに応じた本の紹介等が読書活動の充実につながりました。

※6 校長の指示に基づき、教職員と連携しながら、学校図書館の環境整備、蔵書の管理等への支援、児童生徒の学校図書館の利用や読書に関する授業及び指導への支援等を行う市会計年度任用職員

※7 司書教諭養成の講座を修了し、資格を取得した教員

④学校図書館の蔵書冊数達成率の向上、市内小中学校における学校図書館システムの活用等、学校図書館の整備が充実した。

蔵書冊数については、学校図書館図書標準(※8)の100%達成を目標に計画的な選定と購入を進め、令和6年度末には、市内小中学校全体で106.2%となりました。図書購入システムの活用により、効率的かつ正確に蔵書管理を行っています。また、令和6年度より分類別冊数調査を行うようにし、分類のバランスを考慮しながら各校の実態に応じた蔵書管理を行っています。

※8 文部科学省が示す、学級数に応じた整備すべき規準蔵書数

⑤幼稚園・保育所（園）・認定こども園では、図書館の団体貸出により、絵本の拡充を図り、出張お話し会を活用したことで、読み聞かせの取組をより深めることができた。

図書館による定期的な貸し出しにより、園児が季節や年齢に適した絵本に触れ、絵本の魅力を味わうことができるよう努めました。また、ボランティアの方々による読み聞かせ、さらに、一部の幼稚園や保育所等では、園児が季節や出張おはなし会を活用したことで、読み聞かせの取組をより深めることができました。園児からは読み聞かせを楽しみにしている様子が伺えました。

⑥ブックスタート事業やセカンドブック事業からのつながりにより、図書館では「絵本の会」や「おひざでだっこのおはなし会」への参加者が増え、小さな子どものいる家庭に、本の楽しさを伝えることができた。

読書活動のきっかけとして、ブックスタート事業（3～4か月児相談時）とセカンドブック事業（2歳6か月児歯科健診時、令和5年度から）にて絵本の配付を行いました。ブックスタート事業では相談会場で絵本の読み聞かせと図書館の紹介を行い、セカンドブック事業では歯科健診の日に図書館で「セカンドブックのおはなし会」を行って（令和7年度から）、乳幼児のいる家庭に絵本の楽しさや図書館の利用について伝えることができました。

⑦図書館による学校図書館への支援や園児及び児童の図書館見学等により、学校図書館の整備や、授業での活用、図書館の紹介など、本に親しむ機会を提供することができた。

図書館では、小学校において司書による移動図書館車の学校訪問に合わせたブックトークや授業支援を行いました。また、学校図書館の蔵書管理等に関する運営相談を行いました。さらに本を活用した授業の充実のため、小中学校、高校へ資料の団体貸出を行いました。

また、園児や児童の図書館見学や小学校生活科の「まちたんけん」、中学生の職場体験の受け入れ、中高生ボランティア「図書部」の活動により、公共の図書館の様子や仕事について紹介することができました。

⑧幼稚園・保育園（所）・認定こども園や小中学校、高等学校、特別支援学校と、子どもの読書活動に係る関係機関、ボランティア団体等が、共に研修や情報交換を行う連絡会の開催により、市内の子ども読書活動推進に関するネットワークの強化につながった。

毎年8月に行っている子ども読書活動推進連絡会において、日頃の読書活動の取組についての情報交換や推進計画をふまえた読書活動の推進の方策について協議等を行っています。それぞれの活動の様子や取組を知ることで、課題を共有することができ、連携が深まりました。連絡会では、毎年講師を招き、異校種の取組や地域の連携についての情報交換も行っています。

3 課題

学年が上がるにつれて読書離れが増えていく傾向については第一次計画策定時からの課題となっていますが、第五次計画策定のために実施した読書に関するアンケートの結果において、小学生の読書の好きな子どもの割合が減少していることは、大きな課題と認識しています。第五次計画策定に当たり、デジタル化の推進等、子どもたちを取り巻く状況が大きく変化していることを踏まえながら、次の5つの課題に対する方策に重点を置いていく必要があります。

①読書が好きな子どもの割合が減少している。

読書に関するアンケートでは、今回と前回（令和2年度末実施）を比較すると、全ての調査対象学年において数ポイント下回っています。1か月に1冊も本を読まなかった子どもの割合（不読率）についても、前回より高くなっています。図書館等の公共機関や関係各課、幼稚園・保育園（所）・認定こども園、学校等の連携を強化し、行事、読み聞かせ、講座等、子どもの時期に本に触れる様々な機会を継続的に提供していく必要があります。

また、各学校においては、読書タイムの充実に向け、児童生徒の実態に応じた取組方法の工夫が必要です。

②家庭での読書への取組に差が見られる。

読書に関するアンケートにおいて、「自分の子どもは読書が好きである」と回答している保護者は、子どもが読書好きである理由として「子どもによく読み聞かせをした」ことを挙げている人が59%と最も多くなっており、読書が好きな子どもを育てるには家庭における読み聞かせの充実が大きな鍵となっていることがわかります。

しかしながら、家庭での読み聞かせについて、「ほぼ毎日している」と回答した保護者の割合は平均24.6%であることに対し、「ほとんど読んでいない」と回答した保護者の割合は平均19.6%となっており、家庭における取組には差が見られます。

どの子どもも読書の楽しさを知り、読書習慣が身に付くようにするためには、家庭での取組が非常に重要です。現在行っているブックスタート事業（3～4か月児相談時）とセカンドブック事業（2歳6か月児歯科健診時）の絵本配付等で、引き続き乳幼児のいる家庭に絵本の楽しさや図書館の利用について伝えていくとともに、子どもの年齢が上がっても家族で読書が楽しめるような取組や家族の誰もが読書活動について積極的に関わることができるような取組等、家庭への働きかけの強化が必要です。

③子どもの読書活動推進に係る情報の周知が十分ではない。

読書に関するアンケートで、小中学生の保護者に「四街道子どもブックリスト」の小学生版及び中学生版について知っているかを尋ねたところ、「知らない」と回答した小学生の保護者は76%、中学生の保護者は78%でした。「どうすれば子どもたちがもっとよく本を読むようになるか（複数回答）」という質問に対しては、「本についての情報を積極的に知らせる」という回答が51%で最も多く、次に多い回答が「図書館に連れていく」で50%でした。

市独自のブックリストである「四街道子どもブックリスト」の周知に重点を置くとともに、図書館や公民館等における読書に関わる企画の周知にも努めていく必要があります。

④関係各所の連携・協力体制（ボランティアも含む）のさらなる強化が必要である。

子どもの読書活動をさらに推進するために、幼稚園・保育所（園）・認定こども園、学校、図書館、ボランティア団体、その他関係機関が連携して継続的に情報提供や事業展開を行うことが求められています。

特に、読み聞かせ等を行うボランティア団体の横のつながりを重視しながら、幼稚園・保育所（園）・認定こども園、学校や関係機関等による連絡会での情報交換を通じた連携・協力体制の強化を進めていきます。

⑤デジタルとアナログ（紙媒体）の利点を生かした読書活動の推進を意識する。

G I G Aスクール構想により一人一台端末等の電子機器が子どもにとって身近な存在になっています。紙媒体の資料とデジタル資料のそれぞれの良さを生かした効果的な使い分けを考えていく必要があります。また、家庭や学校等、時と場に応じた読書活動を可能にするため、電子図書館の蔵書を増やしたり児童生徒や保護者に広く周知したりする等、電子図書館の普及と活用を啓発していくことも必要です。

第2章 第五次計画の策定

1 趣旨

本市では、平成19年度末に「すべての子どもに読書の喜びを」をスローガンに第一次計画を策定してから、読書の大好きな子どもを育てるためにさまざまな取組を進めてまいりました。

第二次計画からは、スローガンを「読書で拓く 子どもの未来」とし、読書によって身に付けた幅広い教養と豊かな心は、これから子どもたちが直面するであろう「社会の変化が激しく、予測困難な時代」であっても、自分の未来をたくましく切り拓いていく大きな力につながるという願いのもと、子どもの読書活動推進に係る市内のネットワークを構築し、多くの方々のご協力を得ながら、各事業を展開してきました。

第四次計画期間前半では、コロナ禍で学校図書館等の活用も困難な状況の中で、子どもの読書活動推進に携わる子どもの身近にいる大人たち（保育士、学校等の教職員、図書館司書、ボランティア、保健師等）が知恵を絞り、アイデアを生かして取組を進めました。計画期間後半には、利用に制限のあった学校図書館等にも子どもたちの笑顔が戻り、コロナ禍以前に増してさまざまな取組が活発に行われるようになりました。また、本市では、小中学校において令和2年度から一人一台端末が導入され、読書活動においてもデジタル資料の活用が進んできたところです。

第五次計画では、計画推進のスローガンを引き続き「読書で拓く 子どもの未来」とし、家庭・地域・学校が連携するとともに、必要な事業を継続し、読書活動の充実を図ります。また、第四次計画における成果と課題、子ども、保護者、学校へのアンケートの結果等や、昨今の子どもたちを取り巻く状況も踏まえて、事業を整理し、目標数値も実現可能なものとなるよう見直しを図りました。

基本方針については、次のように定め、より一層の読書活動の推進に取り組んでまいります。

2 基本方針

(1) 子どもの読書活動を支える読書環境の整備・充実

全国的な傾向ですが、市内小中学校においても特別な支援や日本語指導を必要とする児童生徒が増加しており、個々のニーズに応じたきめ細やかな支援に努めているところです。読書活動の推進に当たっても、全ての子どもたちの可能性を引き出すために、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に資する読書環境の整備と読書機会の確保について考えていく必要があります。

また、令和3年12月に「こども政策の新たな推進体制に関する基本方針」が閣議決定され、令和4年6月には「こども家庭庁設置法」（令和4年法律第75号）や「こども基本法」（令和4年法律第77号）等が成立したことを踏まえ、子どもの意見を年齢や発達段階に応じてこども政策に反映させていくことが求められています。

これらのことから、様々な方法で子どもの意見聴取の機会を確保し、多様な子どもの意見を取組に反映させる等、子どもの視点に立った読書活動の推進を重視するとともに、子どもが本を必要としたときに、その子どもにとって魅力のある本がいつも身近にあるよう、図書資料をはじめ、学校における一人一台端末による電子図書館の活用等、読書活動に係る環境の整備・充実に努めます。

また、保護者をはじめ、学校等の教職員や学校司書、ボランティア、図書館の職員、地域の大人など、子どもの読書活動に係るさまざまな立場の大人が、子どもと一緒に本を読んだり、読書

の楽しさや素晴らしさ、大切さを子どもに伝えたりしながら、子どもの主体的な読書活動を支えていくことができるよう人的環境の整備・充実に努めます。

(2) 家庭・地域・学校等の関係機関の連携・協力の推進

学校、幼稚園・保育園（所）・認定こども園、図書館、こどもルーム等やボランティアグループ等の民間団体、教育委員会等、子どもの読書活動に係る関係機関が連携し、家庭や地域の方々とともに読書活動の推進に取り組みます。また、乳幼児が本に触れ合う機会の確保を積極的に行い、年齢による切れ目のない読書活動の推進を図ります。

(3) 子どもの読書活動に関する理解・関心の普及

子どもの読書活動の意義や重要性について、さまざまな場面で広く普及・啓発を図るよう努め、市民の理解と関心を深めるようにし、市全体で子どもの読書活動を推進していく気運を高めていきます。

3 3つの基本方針をもとにした5つの具体的方策

- 1 家庭における推進方策
- 2 地域における推進方策
- 3 学校における推進方策
- 4 家庭・地域・学校等間の連携・協力の推進
- 5 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

4 計画の期間

令和9年度からおおむね5年間とします。

なお、この期間中において必要に応じて見直しを行います。

5 計画の対象

本計画でいう「子ども」とは、おおむね18歳以下の者をいいます。

6 財政上の措置

本計画に掲げられた事業等を推進するため、市をはじめ関係機関等は、その役割に応じた財政上の措置を講じるよう努めます。

資料4

第五次子ども読書活動推進計画策定スケジュール

	推進会議 担当者会議(作業部会)		策定委員会		事務局
R7 1月	31 (金)	担当者会議 読書に関するアンケート案 作成完了			
2月	13 (木)	推進会議 アンケート確認			
3月					・公募外策定委員選出依頼 ・公募委員募集(3名)募集 (市政だより掲載)
4月		推進会議 アンケート、スケジュール、 委員等の確認			
5月	16 (金)	担当者会議 アンケート、スケジュール、 委員等の確認			・公募外策定委員選出依頼 ・公募委員募集(3名)再募集 (市政だより掲載)
7月					・公募委員選考委員会(17日)
8月			27 (水)	第1回委員会 ・委員委嘱 ・計画策定の趣旨説明 ・アンケート案説明	
9月		作業部会 アンケート案修正			・アンケート配布、実施 ・公募委員募集(1名)再々募集 (市政だより掲載)
10 ~12月		作業部会 アンケート集計・考察 第四次計画成果と課題作成			
R8 1月	19 (月)	推進会議 アンケート結果、成果と課題、 策定スケジュール確認			
2月		作業部会 ・素案づくり	3 (火)	第2回委員会 ・アンケート結果 ・第四次計画成果と課題 ・第五次計画の基本方針等 ・策定スケジュール	
3~4月		 推進会議 ・素案の確認			
5月				第3回委員会 ・素案検討	
6月		作業部会 ・計画案づくり			
7月		推進会議(書面) ・計画案の確認			・教育部庁舎移転
8月		作業部会(第4回の後) ・計画案修正		第4回委員会 ・計画案検討	
9月		作業部会(第4回の後) ・計画案修正			
10月				第5回委員会 ・計画案確認	
11月					・計画案調整⇒教育長への計画案の報告 ・パブリックコメント実施
12月					・パブコメ結果取りまとめ
R9 1月					・パブコメ結果公表
2月		推進会議 ・第五次計画の推進に向けて			・定例教育委員会会議で推進計画決定
3月					・3月議会で議員に配布